

أخيه الوليد بن عبد
أفريقية وذلك في سنة تسع وثمانين للهجرة وقال
ابو عبد الله الحميدي في كتاب جذوة المقتبس ان موسى
بن نصير تولى أفريقية والمغرب سنة سبع وسبعين
رسله اليها فلما قدمها ومعه جماعة من الجنود بلغه
بأطراف البلاد جماعة خارجين عن الطاعة فوجه
الله فاتاه بمائة الف رأس من
ن الى جهة اخيه

アラビア語のノート

古典アラビア語の授業ノート

v

詩と文法書

<http://arabiago.jimdo.com>

目次

1. さまざまな詩句（アッバース朝以降のもの）.....	3
2. 『海人の真珠』から 1.....	5
3. 『海人の真珠』から 2.....	9
4. 『海人の真珠』から 3.....	11
5. シーバワイヒの文法書から 1.....	14
6. シーバワイヒの文法書から 2.....	16
7. シーバワイヒの文法書から 3.....	19
8. シーバワイヒの文法書から 4.....	20
9. タラファのムアッラカ詩とザウザニーの注釈から.....	22
10. ハマーサ詩集から 1.....	28
11. ハマーサ詩集から 2 恋の詩.....	38
12. ハマーサ詩集から 3 「復讐の詩」.....	41
13. ラビードの詩から.....	47
14. 「アラブのラーミーヤ」から.....	56
結び タラファのムアッラカ詩から.....	67

ずっと前の古典アラビア語講読の授業のノートをもとに作ったアラビア語と日本語の対訳です。アラビア語には母音符号をつけています。

先生の講義内容は正しかったはずですが、受講者の不注意のため、このノートにはいくつか間違いもあるかと思えます。ご容赦下さい。

この冊子は同タイトルのWebページに、順次掲載しているものをまとめたものです。

お気づきの点、ご質問等がございましたら、<http://arabiago.jimdo.com> のページからご連絡をお願いします。

V巻では古典詩と文法の書を取りあげました。古典詩は普段使わないような言葉がたくさん出てくるので、対訳だけではなく、単語ごとの意味もある程度、載せています。詩は抜粋です。

・『海人の真珠』はマカーマートで有名な **أَلْحَرِيرِيُّ** ハリーリー著の **أَوْهَامِ الْخَوَاصِّ** という本です。

（直訳すれば『上流階級の（文法的）誤りについての海人の真珠』）という本です。

・シーバワイヒの文法書についてはIV巻にある通り、後の文法書の基になったものです。

・ムアッラカートには幾つも注釈書がありますが、その一つ **أَلزُّوْزَنِيُّ** ザウザニーの注釈つきで、**طَّرْفَةُ** タラファの詩を紹介しています。

・ハマーサ詩集は **أَبُو تَمَّامٍ** アブー・タンマーム編纂のものです。

・**أَبِيْدُ بْنُ رَبِيعَةَ** ラビード・ブン・ラビーアの詩もムアッラカートの中に選ばれていますが、ここに挙げたものはそれとは別の詩です。

・ラーミーヤは **ل** 脚韻の詩です。

1. さまざまな詩句（アッバース朝以降のもの）

إِذَا نَلْتُ مِنْكَ أَلْوَدَّ فَأَلْمَالُ هَيِّنٌ

私があなたからの愛を手に入れたとき
金銀はささいなものとなった

وَكُلُّ الَّذِي فَوْقَ التُّرَابِ تُرَابٌ

地の上にあるすべてのものは
土となった

(الْمُتَنَبِّي)

(ムタナツビー作)

وَلَا كُتُبٌ إِلَّا الْمَشْرِفِيَّةُ عِنْدَهُ

彼のもとにおいては剣以外に文書はない(武力に訴える)

وَلَا رُسُلٌ إِلَّا الْخَمِيسُ الْعَرَمَرَمُ

また大軍以外に使節はない

(الْمُتَنَبِّي)

(ムタナツビー作)

مَشْرِفِيَّةٌ : 剣

خَمِيسٌ : 軍隊(五つの部分から編成されている)

1 本来は **كُتُبٌ** だが、詩の韻律に合わせるために母音を省いている。

詩では韻律に合わせるために、このように母音を省いたり、逆にスクーンであるはずのところに母音を入れたり、またタンウィーンがあるはずのものを省いたり、逆に本来2段変化でタンウィーンがないはずものを3段変化にしてタンウィーンをつけたり、接尾代名詞の母音が違っていたりすることがあります。

そのような現象については必ずしも説明をつけていません。

سُلَّ سَيْفُ الْفَجْرِ مِنْ غَمْدِ الدُّجَى 暁の刀が暗黒の鞘から抜かれた

وَتَعَرَّى اللَّيْلُ مِنْ ثَوْبِ الْغَلَسِ 夜は未明の衣を脱いだ

(ابْنُ وَكَيْعٍ)

(イブン・ワキーウ作)

وَتَفْتَحُ وَلَا كَانَتْ فَمَا لَوْ رَأَيْتَهُ 彼女は—開かなくても良いのに—口を開く
あなたがそれを見れば

تَوَهَّمَتْهُ بَابًا مِنَ النَّارِ يُفْتَحُ 地獄の一つの門が開かれたかのように想像するだろう

(作者不詳)

وَتَفْتَحُ فَمَا لَوْ : 否定の願望文。主文 وَلَا كَانَتْ (فاتحة) の中に挿入されている。

فَلَيْتَ طَالِعَةَ الشَّمْسَيْنِ غَائِبَةً 二つの太陽のうち、昇るものが沈めばよいのに

وَلَيْتَ غَائِبَةَ الشَّمْسَيْنِ لَمْ تَغِبِ そして沈んだ太陽が沈まなければよかったのに

(الْمُتَّبِيُّ)

(死んだ人への追悼。太陽に例え、本物の太陽が沈み、その人が死ななければよかったのに)(ムタナツビー作)

أَيُّهَا الْإِنْسَانُ صَبْرًا 人よ、忍耐せよ

إِنَّ بَعْدَ الْعُسْرِ يُسْرًا 困難の後に楽しみがやって来る

اشْرَبِ الصَّبْرَ وَإِنْ كَا 忍耐を飲め

نَ مِنْ الصَّبْرِ أَمْرًا たとえそれが没薬より苦くても

(作者不詳)

صَبْرٌ : 「忍耐」、「没薬」の二つの意味がある。後者の意味では通常は صَبْرٌ

إِنْ كَانَ أَمْرٌ مِنَ الصَّبْرِ 普通語順にすると : أَمْرٌ 比較級

2. 『海人の真珠』から 1

وَيَقُولُونَ هَبَّتِ الْأَرْيَاحُ مُقَاسِمَةً عَلَى 人々は、هَبَّتِ الْأَرْيَاحُ (風 pl.が

قَوْلِهِمْ رِيَّاحٌ وَهُوَ خَطَأٌ بَيْنَهُمْ وَوَهُمْ 吹いた)と言ひ、それは

مُسْتَهْجَنٌ 類推してのことだが、それは明らかな間違い、卑しい考

وَالصَّوَابُ أَنْ يُقَالَ هَبَّتِ الْأَرْوَاحُ 正しくは、هَبَّتِ الْأَرْوَاحُ と言う。

كَمَا قَالَ ذُو الرُّمَّةِ

例えば、ズー・ルンマが次のように詠んだように。

إِذَا هَبَّتِ الأَرْوَاحُ مِنْ نَحْوِ جَانِبِ

マイイの家族がいる方角から風が吹いたとき

بِهِ أَهْلٌ مَيِّ هَاجَ قَلْبِي هُبُوبُهَا

風が吹くことが私の心を乱した

هُوَي تَذْرِفُ العَيْنَانِ مِنْهُ وَإِنَّمَا

両眼は恋慕の涙を流す

هُوَي كُلِّ نَفْسٍ حَيْثُ كَانَ حَبِيبُهَا

全ての人(魂)の恋慕はその恋人がいるところにある

وَالْعِلَّةُ فِي ذَلِكَ أَنَّ أَصْلَ رِيحٍ رَوْحٌ

その理由は رِيح (風)の元は رَوْح という語根から

لِأَسْتِقَاقِهَا مِنَ الرِّوْحِ

派生した رَوْح であるからだ。

وَإِنَّمَا أُبْدِلَتْ الأَوَاوُ يَاءً فِي الرِّيحِ

ريح や رِيح で و が ي にな

وَالرِّيَّاحِ لِلْكَسْرَةِ قَبْلَهَا

変えられたのは、ただ、その前のカスラのためである。

فَإِذَا جُمِعَتْ عَلَى أَرْوَاحٍ فَقَدْ سَكَنَ مَا

しかし、أَرْوَاح という形で複数形

قَبْلَ الأَوَاوِ وَزَالَتِ العِلَّةُ الَّتِي تُوجِبُ

にされると、و の前はスクーンで、

قَبْلِهَا يَاءً

ي に変える必要となる理由が消滅する。

فَلِهَذَا وَجَبَ أَنْ تُعَادَ إِلَى أَصْلِهَا كَمَا

このためにその元に戻す必要がある。同様に

أُعِيدَتْ لِهَذَا السَّبَبِ فِي التَّصْغِيرِ

縮小形を作るときも、この理由で戻され、

فَقِيلَ رُوَيْحَةٌ

رُوَيْحَةٌ (小さい風) と言う。

وَنَظِيرُ قَوْلِهِمْ رِيحٌ وَأَرْوَاحٌ قَوْلُهُمْ فِي

ريح , أَرْوَاحٌ と言うのに似たものは、ثَوْبٌ (服)、حَوْضٌ (水溜)

جَمْعِ ثَوْبٍ وَحَوْضٍ ثِيَابٌ وَحِيَاضٌ

ثِيَابٌ の複数形として言う、
حِيَاضٌ である。

فَإِذَا جَمَعُوهَا عَلَى أَفْعَالٍ قَالُوا أَثْوَابٌ

それを أَفْعَالٍ の型で複数形にするなら、

وَأَحْوَاضٌ

أَحْوَاضٌ、أَثْوَابٌ と言う。

فَإِنْ قِيلَ فَلِمَ جُمِعَ عِيدٌ عَلَى أَعْيَادٍ

عِيدٌ (祭り) は何故 أَعْيَادٍ として複数形にされるのか

وَأَصْلُهُ الْوَاوُ بِدَلَالَةِ اشْتِقَاقِهِ مِنْ عَادَ

動詞 يَعُودُ といふ派生の証拠により、元は و であるのにと

يَعُودُ فَالْجَوَابُ عَنْهُ

言われるなら、その答えは、

أَنَّهُمْ فَعَلُوا ذَلِكَ لِئَلَّا يَلْتَبِسَ جَمْعُ

عِيدٍ の複数形と、عُودٌ (楽器のウードリュート) の、

عِيدٍ بِجَمْعِ عُودٍ

複数形が混同されないようにしたのだ。.....

وَكَمَا قَالُوا أَيْضًا هُوَ نَشِيَانٌ لِلْخَبْرِ

また、هُوَ نَشِيَانٌ لِلْخَبْرِ (ニュースをよく知る=早耳) と言うが、

لِيَفْرُقُوا بَيْنَهُ وَبَيْنَ نَشْوَانٍ مِنَ السُّكْرِ

それは酒に نَشْوَانٌ (酔っている) と区別するためである。

وَمِمَّا يَعْضُدُّ أَنْ جَمَعَ رِيحٍ عَلَى

ريحをアَزْوَاحٌとして複数形に
することを支持するものの中に

أَزْوَاحٍ مَا رُويَ أَنَّ مَيْسُونَ بِنْتُ

次のような伝承がある。マイスー
ン・ビント・バハダルが

بَحْدَلٍ لَمَّا اتَّصَلَتْ بِمُعُويَةَ وَنَقَلَهَا مِنْ

ムアーウィヤと結ばれ、彼女を沙
漠からシャームへ

الْبَدْوِ إِلَى الشَّامِ كَانَتْ تَكْثُرُ الْحَنِينَ

移すとき、彼女は自分の国の人々
への慕情と

إِلَى أَنْسَابِهَا وَالتَّذْكَرَ لِمَسْقَطِ رَأْسِهَا

故郷の思い出を募らせた。

فَأَسْتَمَعَ عَلَيْهَا ذَاتَ يَوْمٍ وَهِيَ تُنْشِدُ

そして、ある日、彼は彼女が次の
ように吟じるのを聞いた。

لَبَيْتٌ تَخْفِقُ الْأَزْوَاحُ فِيهِ

風にはためくテントのほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ قَصْرِ مُنِيفٍ

そびえる城より私には好ましい

وَلِبْسُ عَبَاءَةٍ وَتَقْرِ1 عَيْنِي

粗末な外衣で心楽しい(目が涼し
い)ほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ لِبْسِ الشُّفُوفِ

薄物を着るより私には好ましい

وَأَكْلُ كُسَيْرَةٍ فِي كِسْرِ بَيْتِي

テントの横でパンくずを食べるほう
が

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ أَكْلِ الرَّغِيفِ

形の整ったパンを食べるより私に
は好ましい

وَأَصْوَاتُ الرِّيَّاحِ بِكُلِّ فَجٍّ

谷あいの道を吹き抜ける風の音の
ほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ نَقْرِ الدُّفُوفِ

太鼓を打つ音より私には好ましい

وَكَلْبٌ يَنْبَحُ الطَّرَاقَ دُونِي

私の前で夜訪れる者に吠える犬の
ほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ قِطِّ الْأَوْفِ

良く馴れた猫より私には好ましい

وَبَكَرٌ يَتَّبِعُ الْأَظْعَانَ صَعْبٌ

ラクダかごの後に続く強情な若い
ラクダのほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ بَعْلِ زَفُوفِ

良く走るラバより私には好ましい

وَحِرْقٌ مِنْ بَنِي عَمِّي نَحِيفٌ

従兄弟達の中の痩せた寛大な男
のほうが

أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ عِلْجِ عَلِيفِ

太った野蛮人より私には好ましい

فَلَمَّا سَمِعَ مُعَوِيَةَ الْأَبْيَاتَ قَالَ مَا

ムアーウィヤはその詩句を聞いた
とき、言った。

رَضِيتِ ابْنَةَ بَحْدَلٍ حَتَّى جَعَلْتِنِي

バハダルの娘よ、あなたは私を太
った野蛮人にするまで

عِلْجًا عَلِيفًا

満足しないのか(そこまで言わない
と気が済まなかったのか)。

1 ¹ تَقَرَّ 1 前の أَنْ が省略されていると考える

3. 『海人の真珠』から 2

يَقُولُونَ مِائَةً وَنَيْفٌ بِإِسْكَانِ الْيَاءِ

人々は *ى* をスクーンにして

مِائَةً وَنَيْفٌ (百余り) と言うが

وَالصَّوَابُ أَنْ يُقَالَ نَيْفٌ بِتَشْدِيدِهَا

正しくはシャツダにして *نَيْفٌ* と言
うべきである。

وَهُوَ مُشْتَقٌّ مِنْ قَوْلِهِمْ أَنْفًا عَلَى

それは何かの上にそびえる(見下
ろす)とき

الشَّيْءِ إِذَا أَشْرَفَ عَلَيْهِ

الشَّيْءِ عَلَى أَنْفٍ と言うのから
派生している。

فَكَانَهَا لَمَّا زَادَ عَلَى الْمِائَةِ صَارَ

なぜなら、100を超えたとき、あ
たかも100の上にそびえる

بِمِثَابَةِ الْمُشْرِفِ عَلَيْهَا

(見下ろす)のと同様になるから
である。

وَمِنْهُ قَوْلُ الشَّاعِرِ

それについて詩人の詠んだもの
がある。

حَلَّتْ بِرَابِيَةِ رَأْسِهَا

私は丘に住んでいた その頂は

عَلَى كُلِّ رَابِيَةٍ نَيْفٌ

すべての丘を見下ろしていた

وَقَدْ اخْتَلَفَ فِي مِقْدَارِ النَّيْفِ فَذَكَرَ

نَيْفٍ の量については意見が様々
であり、アブー・ザイド

أَبُو زَيْدٍ أَنَّهُ مَا بَيْنَ الْعَقْدَيْنِ وَقَالَ

は、それは10と10の間(10以下)
だと述べ、他の者は

غَيْرُهُ هُوَ مِنَ الْوَاحِدِ إِلَى الثَّلَاثَةِ

1から3までと言っている。

فَأَمَّا الْبِضْعُ فَأَكْثَرَ مَا يُسْتَعْمَلُ فِيهَا

بِضْعٍ については、たいていの場
合、3から10までの

بَيْنَ الثَّلَاثِ إِلَى الْعَشْرِ

ものに使われている。

وَقِيلَ بَلْ دُونَ نِصْفِ الْعَقْدِ

一説には、そうではなく10の半分
以下とも言われる。

وَقَدْ أَثَرَ الْقَوْلُ الْأَوَّلُ إِلَى النَّبِيِّ عَلَيْهِ

第1の説は預言者(彼に平安あ
れ)による、至高なる神

السَّلَامُ فِي تَفْسِيرِ قَوْلِهِ تَعَالَى

の、次の言葉の注釈に由来する。

وَهُمْ مِنْ بَعْدِ غَلَبِهِمْ سَيَغْلِبُونَ فِي
بِضْعِ سِنِينَ

「彼らは打ち破られた後、いずれ勝利を得るだろう、

数年のうちに。(コーラン30章3～4節)」

4. 『海人の真珠』から 3

وَيَقُولُونَ دَسْتُورٌ بِفَتْحِ الدَّالِ وَقِيَّاسُ
كَلَامِ الْعَرَبِ فِيهِ أَنْ يُقَالَ بِضَمِّ الدَّالِ
كَمَا يُقَالَ بُهْلُولٌ وَعُرْقُوبٌ وَخُرْطُومٌ
وَجُمْهُورٌ وَنَظَائِرُهَا مِمَّا جَاءَ عَلَى
فُعْلُولٍ

人々は²をファトウハで²دَسْتُورٌ
(兵籍簿)と言っているが

アラビア語の類型では²をダンマで
言うべきである。

例えば²بُهْلُولٌ (道化師)、

²عُرْقُوبٌ (ひかがみ)、

²خُرْطُومٌ (象の鼻)、²جُمْهُورٌ (公

衆)など²فُعْلُولٍ の型に

属する、それに類するもののように。

なぜなら、彼ら(アラブ)の言葉には²ف (第1語根)がファトウハの

²فُعْلُولٍ の型はないからだ。但し

²صَعْفُوقٌ というヤマーマ(地名)
の1部族の名は別である。

彼らについてアッジャージュが詠
んでいる。

إِذْ لَمْ يَجِئْ فِي كَلَامِهِمْ فَعْلُولٌ بِفَتْحِ
الْفَاءِ إِلَّا قَوْلُهُمْ صَعْفُوقٌ وَهُوَ اسْمُ
قَبِيلَةٍ بِالْيَمَامَةِ
قَالَ فِيهِمُ الْعَجَّاجُ

مِنْ آلِ صَعْقُوقٍ وَأَتْبَاعِ أُخْرٍ
وَيُشَاكِلُ هَذَا أَلْوَهَمَ قَوْلُهُمْ أَطْرُوشٌ

「サアクークの一族とその他の従者から」

この誤った考えに似たものに、彼らの言葉で **أَطْرُوشٌ**

بِفَتْحِ الْأَلْفِ وَالصَّوَابُ ضَمُّهَا

(耳の不自由な人)と、**أ**をファトウハで言うことがあるが、正しくはダンマである。

كَمَا يُقَالُ أُسْكُوبٌ وَأُسْلُوبٌ

例えば **أُسْكُوبٌ** (流水)、**أُسْلُوبٌ** (方法) のように。

عَلَى أَنَّ الطَّرِشَ لَمْ يُسْمَعْ فِي كَلَامِ

طرش という語根は純粋なアラビア語には

الْعَرَبِ الْعَرَبَاءِ وَلَا تَضَمَّنَتْهُ أَشْعَارُ

聞かれないし、詩人の牡馬達(優れた詩人達)の詩にも

فُحُولِ الشُّعْرَاءِ

現れない。

وَنَقِيضُ هَذِهِ الْأَوْهَامِ قَوْلُهُمْ لِمَا يُلْعَقُ

この誤りと対照的なものは、なめられるものを **لُعُوقٌ**、

لُعُوقٌ وَلِمَا يُسْتَفُّ سَفُوفٌ وَلِمَا يَمَصُّ

(丸薬として)飲まれるものを **سَفُوفٌ**、すすられるものを

مُصُوصٌ فَيَضُمُّونَ أَوَائِلَ هَذِهِ

مُصُوصٌ とこれらの名詞の最初

الْأَسْمَاءِ وَهِيَ مَفْتُوحَةٌ فِي كَلَامِ

をダンマで言うものだが、それらは

الْعَرَبِ

アラビア語ではファトウハにする。

كَمَا يُقَالُ بَرُودٌ وَسَعُوطٌ وَعَسُولٌ

例えば **بَرُودٌ** (目薬)、**سَعُوطٌ** (嗅ぎ薬)、**عَسُولٌ** (洗剤)。

وَمِمَّا يُشَاكِلُ هَذَا قَوْلُهُمْ تَلْمِيزٌ

وَطَنْجِيرٌ وَبَرْطِيلٌ وَجَرْجِيرٌ

بِفَتْحٍ أَوَائِلِهَا وَهِيَ عَلَى قِيَاسِ كَلَامِ

الْعَرَبِ بِالْكَسْرِ

إِذْ لَمْ يُنْطَقْ فِي هَذَا الْمِثَالِ إِلَّا

بِفِعْلِيلٍ بِكَسْرِ أَلْفَاءِ كَمَا قَالُوا صِنْدِيدٌ

وَقَطْمِيرٌ وَغَطْرِيْفٌ وَمِنْدِيلٌ

وَذَكَرَ ثَعْلَبٌ فِي بَعْضِ أَمَالِيهِ أَنَّ قَوْلَ

الْكِتَابِ لِكَيْسِ الْحِسَابِ تَلْيِيسَةٌ بِفَتْحِ

النَّاءِ مِمَّا وَهَمُّوا فِيهِ وَأَنَّ الصَّوَابَ

كَسْرُهَا كَمَا يُقَالُ سَكِينَةٌ وَعَرِيْسَةٌ

وَعَلَى مَفَادِ هَذِهِ الْقَضِيَّةِ يَجِبُ أَنْ

يُقَالَ فِي اسْمِ الْمَرْأَةِ بِلُقَيْسٍ بِكَسْرِ

これに似たものに、تَلْمِيزٌ (生徒)、

طَنْجِيرٌ (揚げ鍋)、بَرْطِيلٌ (賄
賂)、

جَرْجِيرٌ (水がらし)のように最初
をファトウハで言うものがあるが、
アラビア語の類型ではカスラであ
る。

というのも、この型では

ف をカスラで فِعْلِيلٌ としか

言わないからだ。例えば

قَطْمِيرٌ (指導者)、صِنْدِيدٌ

(ナツメヤシの皮)、غَطْرِيْفٌ (著

名な人)、مِنْدِيلٌ (ハンカチ)。

サアラブ(学者の名)はある口述
(書きとり)の中で言っている。

書記達の言葉では計算の袋のこ
とを、誤った考えで

ت をファトウハで تَلْيِيسَةٌ と言うが
正しくはカスラである。

سَكِينَةٌ (ナイフ)、عَرِيْسَةٌ (ライオン
の巣穴)のように。

この判断の趣旨に従えば、女性の
名を بِلُقَيْسٍ (ビルキース)と、ب を

カスラで言わなければならない。

الْبَاءِ كَمَا قَالُوا فِي تَعْرِيْبِ بَرْجِيْسٍ

例えばアラビア語に取り入れた

برجيس—木星として

وَهُوَ النَّجْمُ الْمَعْرُوفُ بِالْمُشْتَرَى

知られる星のこと—でب をカスラ
で

بَرْجِيْسٍ بِكَسْرِ الْبَاءِ

بَرْجِيْسٍ と言うように。

لِأَنَّ كُلَّ مَا يُعَرَّبُ يُلْحَقُ بِنِظَائِرِهِ فِي

なぜなら、アラビア語に取り入れた
ものはすべて、アラブの

أُمَّتِلَةِ الْعَرَبِ وَأَوْزَانِ اللُّغَةِ

しきたりやアラビア語の型に匹敵
するものにならうのである。

وَعَلَى ذِكْرِ بَلْقِيْسَ فَإِنِّي قَرَأْتُ فِي

ビルキースについては、私はハム
ダーン家のサイフッダウラの

أَخْبَارِ سَيْفِ الدَّوْلَةِ ابْنِ حَمْدَانَ ~

記事で読んだが~

(この後、IV巻のサイフッダウラのところに出てきた兄弟詩人の話がほぼ同じ形で出ている。)

5. シーバワイヒの文法書から 1

هَذَا بَابُ عِلْمٍ مَا الْكَلِمَةُ

語とは何かを知ることの章

فَالْكَلِمُ اسْمٌ وَفِعْلٌ وَحَرْفٌ جَاءَ لِمَعْنَى

語は、名詞と動詞と、名詞でも動
詞でもないものを

لَيْسَ بِاسْمٍ وَلَا فِعْلٍ

示す助辞である。

فَالْأَسْمُ رَجُلٌ وَفَرَسٌ وَحَائِطٌ

名詞は、رجل(男)、فرس(馬)、

حائط(壁)などである。

وَأَمَّا الْفِعْلُ فَأَمْتَلَةٌ أُخِذَتْ مِنْ لَفْظِ

動詞は、幾つかの型があり、名詞の事柄の単語(動名詞)から

أَحْدَاثِ الْأَسْمَاءِ وَبُنِيَتْ لِمَا مَضَى

できた。過去のこと、

وَمَا يَكُونُ وَلَمْ يَقَعْ

まだ起こらないがこれから起こるであろうこと、

وَمَا هُوَ كَائِنٌ لَمْ يَنْقَطِعْ

中断されないで行われていること、
に対して形作られた。

فَأَمَّا بِنَاءِ مَا مَضَى فَذَهَبَ وَسَمِعَ

過去のことの形は、ذهب(行っ

た)、سمع(聞いた)、

وَمَكَثَ وَحَمِدَ

مكث(とどまった)、حمد(誉めた)

などである。

وَأَمَّا بِنَاءِ مَا لَمْ يَقَعْ فَإِنَّهُ قَوْلُكَ أَمْرًا

まだ起こらないことの形は、あなたが命令して言う

أَذْهَبَ وَأَقْتُلُ وَأَضْرِبُ وَمُخْبِرًا

اذهب(行け)、اقتل(殺せ)、اضرِب(

打て)や、叙述して言う

يَقْتُلُ وَيَذْهَبُ وَيَضْرِبُ

يقتل(殺す)、يذهب(行く)、يضرب(

打つ)などである。

وَكَذَلِكَ بِنَاءِ مَا لَمْ يَنْقَطِعْ وَهُوَ كَائِنٌ

中断されないで行われていること
の形も、叙述するときと

إِذَا أُخْبِرْتَ

同様である。

فَهَذِهِ الْأَمْتَلَةُ الَّتِي مِنْ لَفْظِ أَحْدَاثِ

名詞の事柄の単語のこれらの型
は

الْأَسْمَاءِ وَلَهَا أَبْنِيَةٌ كَثِيرَةٌ سَتَبَيِّنُ 1 إِنْ

たくさんの形があり、神が望み給う
たならば、後に

شَاءَ اللَّهُ

明らかになる(する)。

وَالْأَحْدَاثُ نَحْوُ الضَّرْبِ وَالْقَتْلِ

事柄とは ضرب(打つこと)、قتل(殺すこと)、

وَالْحَمْدِ

حمد(誉めること)のようなものである。

وَأَمَّا مَا جَاءَ لِمَعْنَى وَلَيْسَ بِأَسْمٍ وَلَا

意味を表すが、名詞でも動詞でもないものは、

فِعْلٍ فَنَحْوُ ثُمَّ وَسَوْفَ وَوَأُو الْقَسَمِ وَلَا

ثم(そして)、 سوف(未来を示す)、

الإِضَافَةِ وَنَحْوُ هَذَا

誓いの و、連結の ل、このようなものである。

1 تَتَبَّيَّنُ = تَبَيَّنُ

6. シーバワイヒの文法書から 2

هَذَا بَابُ الْمُسْنَدِ وَالْمُسْنَدِ إِلَيْهِ

述語と主語の章

هُمَا مَا لَا يَسْتَعْنِي وَاحِدٌ مِنْهُمَا عَنِ

その二つは一方が他方を必ず必要とし、

الْآخِرِ وَلَا يَجِدُ الْمُتَكَلِّمُ مِنْهُ بُدْأً

話し手はそれを免れるわけにはいかない。

وَمِنْ ذَلِكَ الْأَسْمُ الْمُبْتَدَأُ وَالْمَبْنِيُّ

開始する名詞とそれを基礎にした建立語が

عَلَيْهِ

これに属する。

وَهُوَ قَوْلُكَ

それはあなたが次のように言う場合のことである。

عَبْدُ اللَّهِ أَخُوكَ

「アブドゥッラーはあなたの兄弟だ」

وَهَذَا أَخُوكَ

そして「これはあなたの兄弟だ」

وَمِثْلُ ذَلِكَ قَوْلُكَ

そのようなものは、あなたが次のように言う場合もそうである。

يَذْهَبُ زَيْدٌ

「ザイドが行く」

فَلَا بُدَّ لِلْفِعْلِ مِنَ الْأِسْمِ

つまり、動詞にとって名詞が不可欠である。

كَمَا لَمْ يَكُنْ لِلِاسْمِ الْأَوَّلِ بُدٌّ مِنْ

ちょうど、最初の名詞が、文の開始において、もう一つの

الْآخِرِ فِي الْإِبْتِدَاءِ

ものを欠くことができなかったように。

وَمِمَّا يَكُونُ بِمَنْزِلَةِ الْإِبْتِدَاءِ قَوْلُكَ

開始語に類するものには、あなたが次のように言うような場合がある。

كَانَ عَبْدُ اللَّهِ مُنْطَلِقًا

「アブドゥッラーは去って行った」

وَلَيْتَ زَيْدًا مُنْطَلِقًا

そして「ザイドが去って行けばよいのに」

لِأَنَّ هَذَا يَحْتَاجُ إِلَى مَا بَعْدَهُ كَأَحْتِيَاجِ

なぜなら、開始語が後ろのものを必要とするように、

الْمُبْتَدَأِ إِلَى مَا بَعْدَهُ

これも後ろのものを必要とするからである。

وَأَعْلَمُ أَنَّ الْأِسْمَ أَوَّلُ أَحْوَالِهِ الْإِبْتِدَاءِ

本来の名詞の状態は開始語であることを知れ。

وَإِنَّمَا يَدْخُلُ النَّاصِبُ وَالرَّافِعُ سِوَى

対格にする語、開始語以外の主格にする語、属格にする語が、

الْأَبْتِدَاءِ وَالْجَارُّ عَلَى الْمُبْتَدَأِ

開始語に対して入っているだけである。

أَلَا تَرَى أَنَّ مَا كَانَ مُبْتَدَأً قَدْ تَدْخُلُ

そうであろう、開始語であったものに、

عَلَيْهِ هَذِهِ الْأَشْيَاءُ حَتَّى يَكُونَ غَيْرَ

これらのものが入り、開始語でなくなって、

مُبْتَدَأٍ وَلَا تَصِلُ إِلَى الْأَبْتِدَاءِ مَا دَامَ

私があなたに述べたものと共にある限り、

مَعَ مَا ذَكَرْتُ لَكَ إِلَّا أَنْ تَدَعَهُ

それを除去しなければ文頭に立つことができない。

وَذَلِكَ أَنَّكَ إِذَا قُلْتَ

それはあなたが次のように言うような場合である。

عَبْدُ اللَّهِ مُنْطَلِقٌ

「アブドゥッラーは立ち去っている」

إِنْ شِئْتَ أَدْخَلْتَ رَأَيْتُ عَلَيْهِ فَقُلْتَ

رَأَيْتُ(私は見た)をそれに入れたいなら、次のように言う

رَأَيْتُ عَبْدَ اللَّهِ مُنْطَلِقًا

「私はアブドゥッラーが立ち去るのを見た」

أَوْ مَرَرْتُ بِعَبْدِ اللَّهِ مُنْطَلِقًا

とか「私は立ち去るアブドゥッラーのそばを通った」

فَالْأَبْتِدَاءُ أَوَّلُ كَمَا كَانَ الْوَاحِدُ أَوَّلَ

開始語であることが元になる。1が数字の最初であり、

الْعَدَدِ وَالنَّكْرَةُ قَبْلَ الْمَعْرِفَةِ

不定語が限定語より先にあるように。

هَذَا بَابُ اللَّفْظِ لِلْمَعَانِي

意味についての単語の章

اعْلَمْ أَنَّ مِنْ كَلَامِهِمْ اخْتِلَافَ

知れ。彼ら(アラブ)の言葉には

الْفَظِّيْنَ لِاخْتِلَافِ الْمَعْنِيِّينَ

意味の相違に従って単語が異なることと、

وَاخْتِلَافِ الْفَظِّيْنَ وَالْمَعْنَى وَاحِدٌ

単語が違うが意味が一つのことと、

وَاتِّفَاقِ الْفَظِّيْنَ وَاخْتِلَافِ

単語は一致しているが意味が

الْمَعْنِيِّينَ

異なることがある。

وَسَتَرَى ذَلِكَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ تَعَالَى

神が望み給うならば、次にそのことを述べよう。

فَاخْتِلَافُ الْفَظِّيْنَ لِاخْتِلَافِ

意味の相違に対して単語の相違があるのは

الْمَعْنِيِّينَ هُوَ نَحْوُ جَلَسَ وَذَهَبَ

جلس(座る)とذهب(行く)のようなものである。

وَاخْتِلَافُ الْفَظِّيْنَ وَالْمَعْنَى وَاحِدٌ

単語は異なるが意味は一つのもの

نَحْوُ ذَهَبَ وَأَنْطَلَقَ

ذهب(行く)とانطلق(行く、立ち去る)のようなものである。

وَاتِّفَاقُ الْفَظِّيْنَ وَالْمَعْنَى مُخْتَلِفٌ

単語は一致するが意味は異なるものは、موجدة(怒り)

قَوْلِكَ وَجَدْتُ عَلَيْهِ مِنَ الْمَوْجِدَةِ

وجدت عليه(〜に怒った)という動名詞からの

وَوَجَدْتُ إِذَا أَرَدْتُ وَجْدَانَ الضَّالَّةِ
وَأَشْبَاهُ هَذَا كَثِيرٌ

失われたものの発見を意味する
وجدت(見つけた)のようなもので
ある。

これに似たものは多い。

8. シーバワイヒの文法書から 4

هَذَا بَابُ مَا يَكُونُ فِي اللَّفْظِ مِنْ
الْأَعْرَاضِ

単語における一時的現象

の章

知れ。アラブは、本来の言葉では
そうでないのに

言葉の一部を省略することがあ
る。

また、省略して(その代わりに何か
で)償い、本来、言葉の中で

使われるべき何かを脱落させ、(代
わりにほかの)

何か(を使うこと)によって、それを
なしで済ませる。

神が望み給うならば、次にそれを
述べよう。

元はそうでないのに省略されたも
のには、لم يَكُنْ (<لم يَكْ)、

ذَلِكَ لَمْ يَكْ وَلَا أُدْرِ (<لا أُدْرِ)などがある。

إِعْلَمَ أَنَّهُمْ مِمَّا يَحْذِفُونَ الْكَلَامَ وَإِنْ
كَانَ أَصْلُهُ فِي الْكَلَامِ غَيْرَ ذَلِكَ
وَيَحْذِفُونَ وَيُعَوِّضُونَ وَيَسْتَعْنُونَ
بِالشَّيْءِ عَنِ الشَّيْءِ الَّذِي أَصْلُهُ فِي
كَلَامِهِمْ أَنْ يُسْتَعْمَلَ حَتَّى يَصِيرَ
سَاقِطًا وَسَتَرَى ذَلِكَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ
وَمِمَّا حُذِفَ وَأَصْلُهُ فِي الْكَلَامِ غَيْرُ
ذَلِكَ لَمْ يَكْ وَلَا أُدْرِ وَأَشْبَاهُ ذَلِكَ

أَمَّا اسْتِغْنَاؤُهُمْ بِالشَّيْءِ فَإِنَّهُمْ يَقُولُونَ

何かによって(あるものを)なしで済ますことには、彼らは

يَدَعُ وَلَا يَقُولُونَ وَدَعَ اسْتِغْنَاؤُهَا

(未完了形の)يَدَعُ(残す、捨てる)は言うが、(完了形の)

بِتَرَكٍ

وَدَعُ は言わず、تَرَكَ をその代わりに使う。

وَأَشْبَاهُ ذَلِكَ كَثِيرَةٌ

その類は多い。

وَالْعِوَضُ قَوْلُهُمْ زَنَادِقَةٌ وَزَنَادِيقُ

代償では彼らの言う زنادقة、

زناديق(邪教徒)、

وَفَرَازِنَةٌ وَفَرَازِينُ حَذَفُوا أَلْيَاءَ

فرازنة、فرازين (チェスのクイーン)などで、

وَعَوَّضُوا أَلْهَاءَ

ىを省き、ه(ة)を代償にしている。

وَقَوْلُهُمْ أَطَاعَ يُسْطِيعُ وَإِنَّمَا هِيَ

彼らの言う、أطاع、يُسْطِيعُ(服従

する)は、(本来)أطاع、يطيع、

أَطَاعَ يُطِيعُ زَادُوا أَلْسِينَ عِوَضًا مِنْ

أَفْعَلَ(IV形)の形のع(第2子音)に

あるべき母音がなくなった

ذَهَابِ حَرَكَةِ الْعَيْنِ مِنْ أَفْعَلَ¹

代わりにسを追加したのである。

وَقَوْلُهُمُ اللَّهُمَّ حَذَفُوا يَا وَالْحَقُّوا أَلْمِيمَ

彼らの言うاللهم(神への呼びかけ)

は、(呼びかけの助辞)

عِوَضًا

يا を省き、代わりに م を付けたのである。

1 普通の説では、X形のاسْتَطَاعَ が元だとされている。

لِخَوْلَةٍ أَطَّلَالٌ بِرُقَّةٍ شَهْمِدِ 1

サフマドの石地にハウラの住まいの跡がある

تَلُوحُ كَبَاقِي الْوَشْمِ فِي ظَاهِرِ الْيَدِ

手の甲の入れ墨の名残りのように見える

خَوْلَةٌ: إِسْمُ أَمْرَأَةٍ كَلْبِيَّةٍ ذَكَرَ ذَلِكَ

خولة: カルブ部族の女性の名。そのことを

هَشَامُ بْنُ الْكَلْبِيِّ

ヒシャーム・ブン・カルビーが述べている。

الَطَّلُ: مَا شَخَّصَ مِنْ رُسُومِ الدَّارِ

طل: 目に見える住まいの跡。

وَالْجَمْعُ أَطَّلَالٌ وَطُلُولٌ

複数形は أطلال、 طول

الْبُرْقَةُ وَالْأَبْرَقُ وَالْبَرْقَاءُ: مَكَانٌ اخْتَلَطَ

برقة、 أبرق、 برقاء: 土が

تُرَابُهُ بِحِجَارَةٍ أَوْ حَصَى

石や小石を混じえた場所

وَالْجَمْعُ الْأَبَارِقُ وَالْبِرَاقُ وَالْبَرَقُ

複数形は أبارق、 براق、 برق

إِذَا حُمِلَ عَلَى مَعْنَى الْبُقْعَةِ أَوْ

土地の一部分や土地の意味に関係あるときは

الْأَرْضِ قِيلَ الْبَرْقَاءُ

برقاء と言われ、

إِذَا حُمِلَ عَلَى الْمَكَانِ أَوْ الْمَوْضِعِ

場所や位置に関係あるときは

قِيلَ الْأَبْرَقُ

أبرق と言われる。

تَهْمَدُ: مَوْضِعٌ

تهمد: 地名

تَلُوحُ: تَلْمَعُ وَاللَّوْحُ اللَّمَعَانُ

لوح: 輝く (動名詞で言うと) 輝くこと

الْوَشْمُ: غَرَزُ ظَاهِرِ الْيَدِ وَغَيْرِهِ بِإِبْرَةٍ

وشم: 手の甲やその他を針で刺し、

وَحَشْوُ الْمَغَارِزِ بِالْكُحْلِ أَوْ النَّقْشِ

その刺した場所に青い粉末を詰めたり、

بِالنَّيْلِجِ

藍で描いたりすること。

وَالْفِعْلُ مِنْهُ وَشَمَ يَشِمُّ وَشَمًا

動詞は(完了形)وشم (未完了形)

يشم (動名詞の対格)وشمًاである。

ثُمَّ جُعِلَ اسْمًا لِتِلْكَ النُّقُوشِ

そして(وشم)はその絵に対する名詞として用いられた。

وَتُجْمَعُ بِالْوِشَامِ وَالْوَشُومِ

وشام、وشومとして複数形にされる。

وَمِنْهُ قَوْلُهُ عَلَيْهِ الصَّلَاةُ وَالسَّلَامُ:

そこから預言者(彼に祝福と平安あれ)の次の言葉がある。

لَعَنَ اللَّهُ الْوَأَشِمَةَ وَالْمُسْتَوْشِمَةَ

「神が、女入れ墨師と入れ墨女を呪い給うように」

فَالْوَأَشِمَةُ هِيَ الَّتِي تَشِمُّ الْيَدَ

واشمة は手に入れ墨を施す女、

وَالْمُسْتَوْشِمَةُ هِيَ الَّتِي يُفَعَّلُ بِهَا ذَلِكَ

مستوشمة はそれをされる女である。

ثُمَّ تَبَالِغُ فَتَقُولُ: وَشَمَّ يُوَشِّمُ تَوْشِيمًا إِذَا
تَكَرَّرَ ذَلِكَ مِنْهُ وَكَثُرَ

(アラブは)強調してこうも言う:

تَوْشِيمًا، يُوَشِّمُ، وَشَمَّ

それを繰り返したり、多く行なったりするときである。

وَقُوفًا بِهَا صَحْبِي عَلَى مَطِيئِهِمْ

友人達は私に向かって彼らのラクダを止めて言う

يَقُولُونَ لَا تَهْلِكُ أَسَى وَتَجَلِّدِ

悲しみのために滅びるな 元気になるな(耐え忍べ)

كَأَنَّ حُدُوجَ الْمَالِكِيَّةِ غُدُوءَ

早立ちのマーリク部族のラクダかごは

خَلَايَا سَفِينٍ بِالنَّوَاصِفِ مِنْ دَدِ

ダドの谷川を渡る船の群れのようだ

الْحِدْجُ: مَرْكَبٌ مِنْ مَرَائِبِ النِّسَاءِ

حدج: 女性の乗り物の一つ。

وَالْجَمْعُ حُدُوجٌ وَأَحْدَاجٌ

複数形は أحداج、حدوج であり、

وَالْحِدَاجَةُ مِثْلُهُ وَجَمْعُهَا حَدَائِجٌ

حادجة も同様で、その複数形は حدائج である。

الْمَالِكِيَّةُ: مَنْسُوبَةٌ إِلَى بَنِي مَالِكِ قَبِيلَةٍ

مالكية: カルブ部族の一部族であるマーリク部族に

مِنْ كَلْبٍ

関係づけられる(関係形容詞)。

الْخَلَايَا: جَمْعُ الْخَلِيَّةِ وَهِيَ السَّفِينَةُ
الْعَظِيمَةُ

خلايا: خلية の複数形で大きな
船のこと。

السَّفِينُ: جَمْعُ سَفِينَةٍ ثُمَّ يُجْمَعُ السَّفِينُ

سفين 的複数形。سفين
は更に سفن として

عَلَى السُّفُنِ وَقَدْ يَكُونُ السَّفِينُ وَاحِدًا

複数形にされる。時には سفين は
単数形のこともある。

وَتُجْمَعُ السَّفِينَةُ عَلَى السَّفَائِنِ

سفينة は سفائن として複数形
にされる。

النَّوَاصِفُ: جَمْعُ النَّاصِفَةِ وَهِيَ أَمَاكِنُ

ناصفة: نواصف の複数形。道
やその他のものの

تَتَّسِعُ مِنْ نَوَاحِي الْأُودِيَةِ مِثَالُ

ように、谷間の両側に広がった

السَّكَّكِ وَغَيْرِهَا

場所。

دَدٌ: قِيلَ هُوَ أَسْمُ وَادٍ فِي هَذَا الْبَيْتِ

دد: この詩句では谷の名。

وَقِيلَ دَدٌ مِثْلُ يَدٍ وَقِيلَ دَدًا مِثْلُ عَصَا

「يد」と同じタイプの دد、「عصا」と
同じタイプの ددا、

وَدَدَنْ مِثْلُ بَدَنْ وَهَذِهِ الثَّلَاثَةُ بِمَعْنَى

「بدن」と同じタイプの ددن の形が
あり、

اللَّهْوِ وَاللَّعْبِ

これらの三つは「楽しみ」「遊び」の
意味。

يَقُولُ كَأَنَّ مَرَاقِبَ الْعَشِيقَةِ الْمَالِكِيَّةِ

すなわちこの1行の意味は、マーリク部族の恋人の乗物が、

غُدْوَةَ فِرَاقِهَا بِنَوَاحِي وَادِي دَدٍ

別れの朝にはダドの谷に沿って

سُفُنٌ عِظَامٌ

行く大きな船のようだった。

شَبَّهَ الْإِبِلَ وَعَلَيْهَا الْهُوَادِجُ بِالسُّفُنِ

鞍かごを乗せたラクダを

الْعِظَامِ

大きな船に例えた。

عَدُولِيَّةٌ أَوْ مِنْ سَفِينِ ابْنِ يَامِنٍ

アダウラ部族の船かイブン・ヤーミンの作った船であろう

يَجُورُ بِهَا الْمَلَّاحُ طَوْرًا وَيَهْتَدِي

船頭は時には曲がり、時にはまっすぐ進む

يَشُقُّ حَبَابَ الْمَاءِ حَيْرُومَهَا بِهَا

その舳先(へさき)は波を分けて進んでいく

كَمَا قَسَمَ التُّرْبَ الْمُفَايِلُ بِالْيَدِ

山当て遊びをする子供が手で土を分けているようだ

حَبَابُ الْمَاءِ: أَمْوَاجُهُ الْوَّاحِدَةُ حَبَابَةٌ

حاب الماء: 水の波。単数形は حبابة

الْحَيَازِيمُ: الصَّدْرُ وَالْجَمْعُ الْحَيَازِيمُ

حيازيم: 胸。複数形は حيازيم

التُّرْبُ وَالتُّرَابُ وَالتُّرْبَاءُ وَالتُّورَبُ

تورب、ترباء、تراب、ترب

والتُّيرَابُ وَالتُّورَابُ وَاحِدٌ

تيراب、توراب は同じである。

ثُمَّ يُجْمَعُ التُّرَابُ عَلَى أَثْرِيَةٍ وَتَرِيَانٍ

تراب は أتربة、أتربان として複数形にされる。

والتُّرْبَاءُ عَلَى التُّرْبِ

ترباء は ترب として複数形にされる。

ذَكَرَ هَذَا كُلَّهُ ابْنُ الْأَنْبَارِيِّ

これはすべてイブン・アンバーリーが述べている。

الْفِيَالُ: ضَرْبٌ مِنَ اللَّعْبِ وَهُوَ أَنْ

فيال: 遊びの1種。土が集められる。

يُجْمَعُ التُّرَابُ فَيُدْفَنُ فِيهِ شَيْءٌ ثُمَّ

その中に何かが埋められ、そして

يُقَسَّمُ التُّرَابُ نِصْفَيْنِ وَيُسْأَلُ عَنِ

土が半分に分けられ、埋められたものについて、

الدَّفِينِ فِي أَيِّهِمَا هُوَ

どちらのほうにあるか尋ねられる。

فَمَنْ أَصَابَ قَمْرَ وَمَنْ أَخْطَأَ قَمْرَ

当たった者は勝ちで、誤った者は負けである。

شَبَّهَ شَقَّ السُّفُنِ الْمَاءَ بِشَقِّ الْمُفَايِلِ

船が水を切って進むのを、山当て遊びの子供が

التُّرَابَ الْمَجْمُوعَ بِيَدِهِ

集められた土を手で分けるのに例えた。

1 この地名は本来 **تَهْمَدُ** でタンウィーンのない2段変化だが、ここでは3段変化にしてタンウィーンを省いた形になっている。詩の1行目では上半句の終わりも脚韻と合わせることが多いため

10. ハマーサ詩集から 1

以下、原則として詩の1行ずつに対訳をつけていますが、意味内容が数行にわたって続く場合は、数行まとめて対訳をつけています。

- ① **بَعْضُ شُعَرَاءِ بَلْعَنْبَرٍ** バルアンバル(アンバル部族)のある詩人
 (**بَلْعَنْبَرٍ** [**بَنِي الْعَنْبَرِ** <] は格変化しない)

لَوْ كُنْتُ مِنْ مَّازِنٍ لَمْ تَسْتَبِحْ إِيَّايَ

بَنُو اللَّقِيظَةِ مِنْ ذُهَلٍ بَنِ شَيْبَانَا

もし私がマージン(人名または部族名)のところにいたならば
 ズフル・ブン・シャイバーン部族の捨て子の息子達は私のラクダをほしいままにはしなかったろう

إِسْتَبَاحَ	X 許されたものとみなす、ほしいままにする	لَقِيظٌ	捨て子
--------------------	-----------------------	----------------	-----

إِذَا لَقَامَ بِنَصْرِي مَعْشَرَ خُشْنٍ

عِنْدَ الْحَفِيظَةِ إِنْ ذُو لُوثَةٍ لَأَنَا

そのときには(マージンのところにいたなら)争いに際して、荒くれ男達が私を助けに立ち上がるだろうに
 弱い者であれば軟弱になるのだが

مَعْشَرَ	一団	خُشْنٌ	خُشْنٌ の pl. 気の荒い
حَفِيظَةٌ	怒り、争い	لُوثَةٌ	弱さ、のろさ
لَانَ	柔らかくある		

قَوْمٌ إِذَا الشَّرُّ أْبْدَى نَاَجِدِيهِ لَهُمْ

طَارُوا إِلَيْهِ زَرَفَاتٍ وَوُحْدَانًا

彼らは悪が奥歯をむき出すとき、小さな集団で、また1人ずつ、それに向かって突進する者達だ

نَاَجِدٌ 奥歯

زَرَفَةٌ 「キリン」の意味もあるが、ここでは「小さな集団」の意味

لَا يَسْأَلُونَ أَخَاهُمْ حِينَ يَنْدُبُهُمْ

فِي النَّائِبَاتِ عَلَى مَا قَالَ بُرْهَانًا

彼らは兄弟が災いにおいて泣きつくとき、兄弟が言った言葉の証拠を彼に問わない

نَدَبٌ 嘆く

نَائِبَةٌ 災難

② رَبِيعَةُ بْنُ مَقْرُومٍ رَابِيعُ بْنُ مَقْرُومٍ

وَلَقَدْ شَهِدْتُ الْخَيْلَ يَوْمَ طِرَادِهَا

بِسَلِيمٍ أَوْظِفَةَ الْقَوَائِمِ هَيْكَلٍ

私は合戦の日、足の丈夫な、大きな馬に乗って騎馬隊に参加した

طِرَادٌ 追いかけること 合戦

أَوْظِفَةٌ وَظِيفٌ の pl. ラクダや馬のすね、足

هَيْكَلٌ 「神殿」の意味があるが、ここでは「大きな」の意味

فَدَعَوْا نَزَالٍ فَكُنْتُ أَوَّلَ نَازِلٍ

وَعَلَامَ أَرْكَبُهُ إِذَا لَمْ أَنْزِلِ

敵は降りて来い(いざ勝負)と呼ばわった 最初に降りて挑むのは私
降りないならば何のために馬に乗っているのか

نَزَالٍ اِنْزِلِ 降りろ の意味の
一種の動名詞

عَلَى + مَا عَلَامَ

③ 詠み人知らず

أَلَمْ تَعْلَمَنْ يَا رَبِّ أَنْ رَبَّ دَعْوَةٍ

دَعْوَتِكَ فِيهَا مُخْلِصًا لَوْ أَجَابَهَا

主よ、聞き届けられるならと、何度もあなたに真心から祈りを捧げたことをご存じないのでしょうか

رَبِّ ~ 後ろに属格名詞が来て、
多くの~ の意味になる

تَعْلَمَ تَعْلَمَنْ の強調形 II

④ عَمْرَةَ الْخَشَعِمِيَّةُ アムラ・ハシュアミーヤ

هُمَا أَخَوَا فِي الْحَرْبِ مَنْ لَا أَخَا لَهُ

إِذَا خَافَ يَوْمًا نَبْوَةً فَدَعَاهُمَا

彼ら(息子)2人は、戦いにおいて、兄弟のない人の兄弟になってやった
その人は、いつか、運命のいたずらを怖れるとき、2人を呼んだ

فِي الْحَرْبِ	أَخْوَا مَنْ~ の間に割り込 んでいる	نُبُوَّةٌ	気まぐれ、無法
---------------	---------------------------------	-----------	---------

هُمَا يَلْبَسَانِ الْمَجْدَ أَحْسَنَ لِبْسَةٍ

شَحِيحَانِ مَا اسْتَطَاعَا عَلَيْهِ كِلَاهُمَا

2人は大変見事に(美しい着方で)名誉を帯びている それぞれが、できる限り、名を惜しんでいる

شَحِيحٌ	物惜しみする	اسْتَطَاعَا	اسْتَطَاعَا
---------	--------	-------------	-------------

⑤ مَعْنُ بْنُ أَوْسٍ مَأْنُ·بُنْ·أَوْس

لَعَمْرُكَ مَا أَدْرِي وَإِنِّي لَأَوْجَلُ

عَلَى أَيِّنَا تَعْدُو الْمَنِيَّةُ أَوَّلُ

あなたの命に誓って—私は怖れているのだが—我々のうちのどちらを先に運命が襲うかわからない

وَإِنِّي لَأَوْجَلُ	は挿入句	وَجَلٌ	怖れる	مَنِيَّةٌ	(死の)運命
أَوَّلُ	この形で副詞として使われる				

وَإِنِّي أَخُوكَ الدَّائِمُ الْعَهْدِ لَمْ أَحُلْ

إِنَّ أَبْرَاكَ خَصْمٌ أَوْ نَبَا بِكَ مَنزِلٌ

私は常に誓いを守るあなたの兄弟である

敵があなたを征服しても、あなたにとって住まいの居心地が悪くても、私は変わらない

دَائِمُ الْعَهْدِ	常に誓いを守る	حَالٌ < أَحْلُ	変わる
إِنَّ أَبْرَاكَ	詩の韻律のためIV形の動詞 أَبْرَى IV(征服する)の語頭のハムザを省くが、これは一時性のハムザではないので母音が残る。		
نَبَا	不適當な (家の住み心地が悪いなど)		

⑥ عَاصِيَةُ الْبَوْلَانِيَّةُ アーシャ・パウラーニーヤ

أَعَاصِي جُودِي بِالذُّمُوعِ السَّوَائِبِ

وَبِكِّي لِكِ الْوَيْلَاتِ قَتْلَى مُحَارِبِ

アーシよ、流れる涙を惜しむな お前に災いあれ ムハーリブ部族に殺された人々を嘆け

أَعَاصِي	أُは呼びかけの助辞、عَاصِيَةُは(女性の名、自分に呼びかけている)の略		
جُودِي	جَادٌ < 氣前よくする	بِكِّي	~のことを嘆く
لِكِ الْوَيْلَاتِ	は挿入句		

فَلَوْ أَنَّ قَوْمِي قَتَلْتَهُمْ عَمَارَةً

مِنَ السَّرَوَاتِ وَالرُّؤُوسِ الذَّوَائِبِ

صَبْرَنَا لِمَا يَأْتِي بِهِ الدَّهْرُ عَامِدًا

وَلَكِنَّمَا أَثَارُنَا فِي مُحَارِبِ

もし、私の身内を貴族達、高貴な頭領達の一族が殺したのであったら

敢えて運命がもたらしたることとして我慢したことだろう しかし私の復讐の相手はムハーリブ部族だ

عَمَارَةٌ	一族、小部族	سَرَوَاتٌ	سَرَاةٌ の pl. ²⁸ سَرِيٌّ の二重複 数、 貴族、紳士
ذَوَائِبُ	ذُؤَابَةٌ の pl. 高い、高貴な	وَلَكِنَّمَا	= وَلَكِنْ だが、 ²⁹ لِمَا のため次の 語は対格にならない
أَثَارٌ	ثَأْرٌ の pl. 復讐、仇		

قَبِيلٍ لِنَاءٍ إِنْ ظَهَرْنَا عَلَيْهِمْ

وَإِنْ يَغْلِبُونَا يُوجَدُوا شَرًّا غَالِبِ

彼らは卑しい部族だ もし我々が彼らに勝てば(それでよし)

たとえ彼らが我々に勝ったとしても最も悪い勝利者としてみなされるだろう

لِنَاءٍ	لَيْئِمٌ の pl. 卑しい	إِنْ	前の ²⁹ إِنْ の帰結節は省かれている
---------	--------------------	------	-----------------------------------

⑦ تَأَبَّطَ شَرًّا タアツバタ・シャツラン

إِنِّي لَمُهَدٍ مِنْ ثَنَائِي فَقَاصِدٌ

بِهِ لِابْنِ عَمِّ الصِّدْقِ شَمْسِ بْنِ مَالِكِ

私は誠実なる従兄弟シャムス・ブン・マーリクに私の賞賛を贈り、持つて行く

مُهَدٍ	أَهْدَى	IV 贈る の能動分
詞		

أَهْرُ بِهِ فِي نَدْوَةِ الْحَيِّ عِطْفُهُ

كَمَا هَزَّ عِطْفِي بِالْهَجَانِ الْأَوَارِكِ

彼が腰の大きい優れたラクダで私を喜ばせてくれたように、部族の集会で私は彼を喜ばせる

هَزَّ عِطْفُهُ	脇腹を揺すぶる=喜ばせる
----------------	--------------

هَجَانٌ	血統の正しいラクダ、優れたラクダ
---------	------------------

أَوَارِكُ	أُورِكُ の pl. 腰(وَرِكٌ)の大きい	أَرَاكُ(أَرَاكٌ)の実を食べるという意味にもとれる
-----------	-----------------------------	----------------------------------

قَلِيلُ التَّشَكِّي لِلْمُهَمِّ يُصِيبُهُ

كَثِيرُ الْهَوَى شَتَّى النَّوَى وَالْمَسَالِكِ

彼は直面する難局にもほとんど不平を訴えず、多くの志を持ち、様々な目的と手段を持っている

يَظَلُّ بِمَوْمَاءَ وَيُمْسِي بِغَيْرِهَا

جَحِيشًا وَيَعْرُورِي ظُهُورَ الْمَهَالِكِ

1人で、荒野を昼に行き、夜に別の荒野を行き、危険の背中にじかに乗る

ظَلَّ	昼間に行く	مَوْمَاءُ	荒野、沙漠
جَحِيشًا	人から離れて 単独で	إِعْرُورِي	裸馬に乗る

⑧ أَبِي بِنُ رَبِيعَةَ ウバイイ・ブン・ラビーア

فَمَا سُودَنِيْقٌ عَلَى مَرِيًّا خَفِيْفُ الْفُوَادِ حَدِيْدُ النَّظْرِ

رَأَى أَرْبَابًا سَنَحَتْ بِالْفَضَاءِ فَبَادَرَهَا وَلَجَاتِ الْخَمْرِ

بِأَسْرَعٍ مِنْهَا وَلَا مِنْزِعٌ يُقَمِّصُهُ رَكْضُهُ بِالْوَتْرِ

高峰に住む、明敏で目の鋭いハイタカが、

野原に現れたウサギを見て茂みの隠れ穴へ先回りするのや

弦から放たれてまっしぐらに飛ぶ矢さえ、それ(自分の馬)より速くはない

1行目の مَا سُودَنِيْقٌ は3行目の بِأَسْرَعٍ مِنْهَا につながり、 بِأَسْرَعٍ につなぐ、
مَا سُودَنِيْقٌ について、「ハイタカはそれより速くない」

سُودَنِيْقٌ	ハイタカ(鳥)	مَرِيًّا	高峰
-------------	---------	----------	----

سَنَحَ	現れる	وَلَجَةٌ	入るところ、穴
خَمْرٌ	茂み、やぶ	مِنْزَعٌ	矢
قَمَّصَ	II 走る、蹴る、蹴飛ばす	رَكَضَ	走ること、蹴ること、(弦をもってそれを飛ばすことがそれを飛ばす→弦から放たれて速やかに飛ぶ)

⑨ 詠み人知らず

أَوْدُهُمْ وَدًّا إِذَا خَامَرَ الْحَشَا

أَضَاءَ عَلَى الْأَضْلَاعِ وَاللَّيْلُ دَامِسُ

私は彼女を愛する その愛情がはらわたに混ざるとき、闇夜にもかかわらずあばら骨までを照らす

هُمْ	「彼ら」と言っているが「彼女」のこと	خَامَرَ	~と混ざる
حَشَاً	はらわた	دَامِسٌ	暗い

⑩ عَقِيلُ بْنُ عُلْفَةَ أَكْيِيلُ بْنُ وَثْرَةَ

تَنَاهَوْا وَأَسْأَلُوا ابْنَ أَبِي لَبِيدٍ أَعْتَبَهُ الضُّبَارِمَةُ النَّجِيدُ

(無法を)やめよ、イブン・アビー・ラビードに尋ねよ 猛々しいライオンが彼を満足させるかと

تَنَاهَى	VI やめる	أَعْتَبَ	IV 満足させる
ضُبَارِمَةُ	= ضُبَارِمٌ 是は強意 (猛々しい)ライオン	نَجِيدٌ	勇猛な

وَلَسْتُمْ فَاعِلِينَ إِخَالُ حَتَّى يَنَالَ أَقَاصِيَ الْأَحْطَبِ الْوُقُودُ

たきぎの端に火がつく(悪い事態が発生する)まで、あなたがたはそうしない(やめない)と私は思う

إِخَالُ	خَالَ <	思う 1人称未完了形の語頭母音がかスラのことがある
---------	---------	---------------------------

وَأَبْغَضُ مَنْ وَضَعْتُ إِلَيْهِ لِسَانِي مَعَشَرٌ عَنْهُمْ أَذُودُ

私が舌を置く(言葉にする)者のうち最も嫌な者は、追い払いたい輩である

أَبْغَضُ إِلَيَّ	私にとって最も嫌な	ذَادَ	追い払う
------------------	-----------	-------	------

⑪ 詠み人知らず

نَظَرْتُ كَأَنِّي مِنْ وِرَاءِ زُجَاجَةٍ

إِلَى الدَّارِ مِنْ فَرَطِ الصَّبَابَةِ أَنْظُرُ

私は彼女の家(の跡)を見たが、過剰な愛情のために(涙にぬれて)

ガラスを通して見ているかのようなだった(はっきり見えなかった)

صَبَابَةٌ	愛情
-----------	----

تَبِعْتُ الْهَوَىٰ يَا طَيْبَ حَتَّىٰ كَانَتِي

مِنْ أَجْلِكَ مَضْرُوسٌ الْجَرِيرِ قَوْوُدٌ

私は慕情の後を追いかけた タイバよ、
あなたのためにまるで私は手綱にかまれて大人しくなったラクダのようだ

طَيْبَ	女性の名前 本来は طَيْبَةُ	ضَرَسَ	噛む
مِنْ أَجْلِكَ	= مِنْ أَجْلِكَ 詩の韻律に合わせるためハムザを省略し、代わりに母音を残した		
جَرِيرٌ	手綱	قَوْوُدٌ	従順な、おとなしい

تَعَجَّرَفَ دَهْرًا ثُمَّ طَاوَعَ أَهْلَهُ

فَصَرَّفَهُ الرُّوَّاضُ حَيْثُ تُرِيدُ

そのラクダは一時強情だった その後、人に従順になった
調教師たちは好きなところへその向きを変えた

تَعَجَّرَفَ	(4 語根動詞) 強情である	صَرَّفَ	II 向ける
رُؤَّاضٌ	単数形は رَاضٌ < رَائِضٌ (調教する)		

وَإِنَّ زِيَادَ الْحُبِّ عَنْكَ وَقَدْ بَدَتْ

لِعَيْنِي آيَاتُ الْهَوَى لَشَدِيدُ

私の目に愛の兆候が表れた以上、あなたから私の愛情を追い払うことは難しくなっている

زِيَادُ 追い払うこと

وَقَدْ ~ الْهَوَى 挿入句

وَمَا كُلُّ مَا فِي النَّفْسِ لِلنَّاسِ مُظَهَّرٌ

وَمَا كُلُّ مَا لَا نَسْتَطِيعُ نَذُودُ

心に思うことが全て人々に表されるとは限らない

我々にはできないことすべてを必ずしもあきらめきれものではない

نَذُودُ < ذَادُ 追い払う、あきらめる

وَإِنِّي لِأَرْجُو الْوَصْلَ مِنْكَ كَمَا رَجَا

صَدِي الْجَوْفِ مُرْتَادًا كُدَاهُ صَلُودُ

私はあなたと結ばれることを望んでいる

喉が渴いた者が固い土のところまで掘りぬいた井戸の水を願い求めるように

صَدِي (喉が) 渴いた

مُرْتَادًا (水を) 探し求められる場所、井戸、泉

كُدَاهُ の pl. 固い土

صَلُودُ 固い

وَكَيفَ طِلَافِي وَضَلَّ مَنْ لَوْ سَأَلْتُهُ

قَدَى الْعَيْنِ لَمْ يُطَلِّبْ وَذَاكَ زَهِيدٌ

وَمَنْ لَوْ رَأَى نَفْسِي تَسِيلُ لَقَالَ لِي

أَرَاكَ صَحِيحًا وَالْفُؤَادُ جَلِيدٌ

目の中のちりを(取り除いてくれと)願っても、それは些細なことなのに、叶えてくれないような人
私の心が(傷ついて血が流れるように)流れるのを見ても、あなたは健康で心臓が丈夫だと
私に言う人との結びつきを、私は願うとは、どういうことだろう

قَدَى 目のごみ、ちり

أَطْلَبَ IV 頼みを叶えてくれる

زَهِيدٌ 些細な

جَلِيدٌ 丈夫だ

فِيَا أَيُّهَا الرِّمُّ الْمُحَلَّى لَبَانُهُ

بِكَرَمَيْنِ كَرَمَى فِضَّةٍ وَفَرِيدٌ

銀と真珠の首飾りで胸元を飾られた白カモシカよ

رِئْمٌ 白カモシカ

لَبَانٌ 胸元

كَرْمٌ 首飾り

فَرِيدٌ 真珠など(文法的には **فَرِيدٌ** となるべき)

أَجِدِّي لَا أُمْسِي بِرَمَّانَ خَالِيَا

وَعَضُورَ إِلَّا قِيلَ أَيْنَ تُرِيدُ

真面目な話だが、晩になってこっそりとラツマーンやガドウワル(共に地名)に出かけることはできないだろうか お前はどこに行くつもりだと人に言われなくて

أَجِدِّي 是疑問詞、جَدِّي (私のまじめさ)は挿入句

خَالٍ 1人で、こっそりと

12. ハマーサ詩集から 3 「復讐の詩」 タアツバタ・シャツラン

(実際には خَلْفُ الْأَحْمَرُ ハラフ・アハマルの作であると言われている)

إِنَّ بِالشَّعْبِ الَّذِي دُونَ سَلْعٍ لَقَتِيلًا دَمُهُ مَا يُطَلُّ

サルウ(地名)の手前の山道に殺された者がいる その血は復讐されずにはいないだろう

شَعْبٍ 山道

طَلَّ، طُلَّ (どちらも使われる)復讐されずにいる

خَلْفَ الْعِبَاءِ عَلَيَّ وَوَلِيَّ أَنَا بِالْعِبَاءِ لَهُ مُسْتَقِلُّ

彼はその(恨みをはらすという)重荷を私に残して去った 私は彼の重荷に耐えることができる

وَلِيَّ II 逃げる 去る

اسْتَقَلَّ X 耐える

وَوَرَاءَ الثَّأْرِ مِنِّي ابْنُ أُخْتٍ مَصِيعٌ عُقْدَتُهُ مَا تُحَلُّ

また私の恨みの後には甥がいる 彼は戦いを好み、その決意は解かれることはない

مَصِيعٌ	好戦的な	عُقْدَةٌ	ここでは、決意のこと
---------	------	----------	------------

مُطْرِقٌ يَرْشَحُ سَمًّا كَمَا أَطْرَقَ أَفْعَى يَنْفِثُ السَّمَّ صِلٌ

彼は目を伏せているが毒を漏らす人間である
毒を吐くよこしまなマムシが目を伏せているかのようである

أَطْرَقَ	IV 目を伏せる	رَشَحَ	漏らす
أَفْعَى or أَفْعَى	マムシ (m.にも f.にも使える)	صِلٌ	よこしまな أَفْعَى にかかる

خَبْرٌ مَا نَابَنَا مُضْمَلٌ جَلٌّ حَتَّى دَقَّ فِيهِ الْأَجَلُ

一つの痛ましい知らせが我々に届いた
その知らせは非常に重大なことで、どんな重大なこともこれに比べると小さい

مَا	不定の意味を強める、または余分のもの	نَابَ	(不幸な出来事などが)起こる
مُضْمَلٌ	4語根動詞 إِضْمَلَّ の能動分詞、厳しくある、耐え難いの意味。 خَبْرٌ にかかっている。本来は لٌ だが、脚韻が لٌ なのでそれに合わせている。	جَلٌّ	重大である
جَلٌّ	重大である	دَقَّ	小さくある、軽くある

بَزَّنِي الدَّهْرُ وَكَانَ غَشُومًا بِأَبِيَّ جَارُهُ مَا يُدَلُّ

運命というのは非情なものであるけれど、それは私から誇り高き人を奪った
彼の隣人は卑しめられることがなかったのに

بَزَّنِيَّ	~から~を奪う ここでは本来、بَزَّنِي الدَّهْرُ أَبِيًّا となるはずのところで、この بは強調と言われている
غَشُومٌ	不当な、非常な
أَبِيٌّ	誇り高い人

شَامِسٌ فِي الْقُرِّ حَتَّى إِذَا مَا ذَكَتِ الشَّعْرَى فَبَرْدٌ وَظِلٌّ

彼は、寒いときには太陽のように暖かく、シリウスが輝く夏になると涼しく、日陰である

قُرٌّ	寒いこと	ذَكَتِ	燃えるように輝く
الشَّعْرَى	シリウス(星)		

يَابِسُ الْجَنْبَيْنِ مِنْ غَيْرِ بُوْسٍ وَنَدِيُّ الْكَفَيْنِ شَهْمٌ مُدِلٌّ

彼は貧しくはなかったけれど痩せていた そして二つの手のひらは濡れていた(気前が良かった)
そして賢くて自信満々だった

يَابِسُ الْجَنْبَيْنِ	両脇が乾いている=痩せている	بُوْسٌ	貧乏
شَهْمٌ	賢い	مُدِلٌّ	自信満々の

ظَاعِنٌ بِالْحَزْمِ حَتَّىٰ إِذَا مَا حَلََّ حَلََّ الْحَزْمُ حَيْثُ يُحَلُّ

彼は決意を持って旅立つ 彼が留まるときは、いつもその場所に彼の決意も留まる(決意と共に行く)

ظَعَنَ	旅立つ	حَلََّ	留まる 前のحَلََّは إِذَا の節の動詞で主語は「彼」、 後ろのحَلََّはその帰結節の動詞で主語は الْحَزْمُ
--------	-----	--------	---

غَيْثٌ مُّزِنٌ غَامِرٌ حَيْثُ يُجْدَىٰ وَإِذَا يَسْطُو فَلَيْتُ أَبْلٌ

人に利益を与えようと思うところでは、彼はいつも豊かな雨を降らす雲のようである
しかし、襲うとき、彼は獰猛なライオンのようである

غَيْثٌ	雨	مُزِنٌ	雨雲
غَامِرٌ	豊かな、あふれる	أَجْدَىٰ	IV 益をなす、物を贈る
لَيْتٌ	ライオン	أَبْلٌ	獰猛な

مُسْبِلٌ فِي الْحَيِّ أَحْوَىٰ رِفْلٌ وَإِذَا يَغْزُو فَسِمْعٌ أَزْلٌ

彼は郷においてはくちびる黒く、肉付き良く、ベールを下ろして安楽に暮らしているが
敵を襲うときには痩せた狼になる

أَسْبَلَ	IV (カーテンや幕を)下ろす	أَحْوَىٰ	くちびるが黒い
رِفْلٌ	肉付きの良い	سِمْعٌ	子供の狼、狼とハイエナの雑種 (耳が鋭い)
أَزْلٌ	痩せた		

وَلَهُ طَعْمَانِ أَزْيٌ وَشَرِيٌّ وَكَلَا الطَّعْمَيْنِ قَدْ ذَاقَ كُلُّهُ

彼は二つの味(性質)を持つ 一つは蜜であり、一つはコロシント
 どちらの味をもすべての人が味わっている

أَزْيٌ	蜜	شَرِيٌّ	コロシント 瓜の一種、苦い
--------	---	---------	---------------

يَرْكَبُ الْهَوْلَ وَحِيدًا وَلَا يَضْحَبُهُ إِلَّا الْيَمَانِيُّ الْأَفْلُ

彼は刃こぼれのしたイエメン製の刀のほかに何も身に着けるものなく、一人で恐怖に乗り行く

يَمَانِيٌّ	ここでは、イエメン製の刀	أَفْلٌ	刃こぼれのした
------------	--------------	--------	---------

وَفُتُوْهُ هَجَرُوا ثُمَّ أُسْرُوا لَيْلَهُمْ حَتَّى إِذَا أَنْجَابَ حَلُّوْا

(敵の)多くの若者達は炎天下を行き、夜になれば進んで行く やがて夜の闇が裂けると休息する

وَفُتُوْهُ	و (多くの~)の意味の 属格が続く 普通は単数形の名詞が続くが、ここでは大勢の感じを出すためと、韻律のため複数形が使われている	هَجَرُوا	II 炎天下を行く
فُتُوْهُ	فَتَى 的 pl. 若者	أَسْرَى	IV 夜に行く
أَسْرَى	IV 夜に行く	أَنْجَابَ	VII 裂ける、雲や霧が晴れて明るくなる

كُلُّ مَاضٍ قَدْ تَرَدَّى بِمَاضٍ كَسْنَا الْبَرْقِ إِذَا مَا يُسَلُّ

皆、鋭い若者達であり、引き抜いたとき稲妻のきらめきのような刀を身に帯びている

مَاضٍ	鋭い、刀	تَرَدَّى بِـ	V ~を身に着ける
سَنَا	きらめき、ひらめき、光	سَلَّ	(刀を)抜く

فَادَّرَكْنَا الثَّارَ مِنْهُمْ وَلَمَّا يَنْجُ مِلْحَيِّينِ إِلَّا الْأَقْلُ

我々は彼らに復讐を遂げた 両部族のうち、きわめてわずかの者しか逃れることができなかった
(この詩句は唐突に入っているので、後から付け加えられたと言われている。別の位置に入っているものもある)

ادَّرَكَ	VIII. (目的を)遂げる	لَمَّا	(後に要求法が続く) まだ～していない
مِلْحَيِّينِ	= مِنَ الْحَيِّينِ 両部族のうち		

فَاخْتَسَوْا أَنْفَاسَ نَوْمٍ فَلَمَّا ثَمَلُوا رُعْتَهُمْ فَاشْتَمَعَلُوا

彼らは睡眠をすすめるようにうつらうつらした 彼らが酔ったときあなたは彼らを脅かした
すると彼らは一目散に逃げ出した

اِخْتَسَى	VIII すすめる	أَنْفَاسُ نَفْسٍ	の pl. 飲み込むこと
ثَمَلَ	酔う	رُعَتَ < رَاعَ	脅かす
اشْتَمَعَلَّ	(4語根動詞) 急いで出発する		

حَلَّتِ الْخَمْرُ وَكَانَتْ حَرَامًا وَبِلَايٍ مَا أَلَمَّتْ تَحِلُّ

酒(禁酒の誓い)は解かれた 今までは禁じられていたのであったが
辛うじて酒はまさに許されんとしている

بِلَايٍ مَا~	苦勞をもって、辛うじて ~する	كَأَدَّ أَلَمَّ	と同じ まさに~するところだ
--------------	-----------------	-----------------	----------------

فَأَسْقِنِيهَا يَا سَوَادَ بَنِ عَمْرٍو إِنَّ جِسْمِي بَعْدَ خَالِي لَخَلُّ

だからサワーダ・ブン・アムル(身内か手下の名)よ、私についでくれ
まことに私の体はおじが死んだ後、痩せ衰えている

يَا سَوَادَ	本来は يَا سَوَادَةَ	خَلُّ	痩せ衰えた
-------------	-------------------	-------	-------

13. ラビードの詩から

أَلَمْ تُلْمِمِ عَلَى الدِّمَنِ الْخَوَالِي لِسَلْمَى بِالْمَذَانِبِ فَأَلْقُفَالِ
فَجَنَّبِي صَوْءِرٍ فَنِعَافٍ قَوِّ خَوَالِدَ مَا تَحَدَّثُ بِالزَّرْوَالِ

マザーニブに、またクファールに、またサウアルの両端に、あるいはカウワの峠にある
サルマーの空虚な住まい跡は、滅亡について語ることのない永遠なるものだ(と思われる)が
あなたはそこにたたずまなかつたのか

أَلَمْ تُلْمِمِ	IV の要求法 立ち止まる	دِمْنَةٌ دِمْنٌ	の pl. 住まいの跡
-----------------	---------------	-----------------	-------------

خَوَالٍ	خَالٍ の f. خَالِيَّةُ の pl.	سَلْمَى	女性の名
قَوٌّ	المَذَانِبُ, الأَقْفَالُ, صَوَعْرٌ, قَوٌّ	مَأ	否定
نَعَافٌ	نَعْفٍ の pl. 山の中の高低のある道、峠	زَوَالٌ	滅亡、消え去ること
خَوَالِدٌ	حَالٍ دِيمَنٌ の pl. خَالِدَةٌ (状況)を示す		
تَحَدَّثُ	ت تَحَدَّثُ の 省 略されている		

تَحْمَلُ أَهْلَهَا إِلَّا عِرَارًا وَعَزْفًا بَعْدَ أَحْيَاءٍ جِلَالٍ
وَحَيْطًا مِنْ خَوَاضِبٍ مُؤَلِّفَاتٍ كَأَنَّ رِيَالَهَا أَرْقُ الْأِفَالِ

その住まいの人々は旅立って、そこに住んでいた部族の跡に残るものはただ、獣の鳴き声、霊の囁き、
また、しばしばそこに出没する足赤のダチョウの群れだけである
そのダチョウの群れの子供達は、灰色のラクダの子のようである

تَحْمَلُ	V (テントを畳んで)旅立つ	عِرَارٌ	獣の鳴き声
عَزْفٌ	霊の囁き.	حَى أَحْيَاءٍ	の pl. 部族、部落
جِلَالٌ	حِلَّةٍ の pl. 集落	حَيْطٌ or خَيْطٌ	ダチョウの群れ(集合名詞)
خَوَاضِبٌ	خَاضِبَةٍ の pl. 足の赤いダチョウ	مُؤَلِّفَاتٍ	أَلْفِ IV しばしば行くの 能動分詞(f.pl.)対格 خَيْطًاにかかる

رَأَالُ رِئَالُ の pl. 子供のダチョウ	أُزُقُ 本来は أُورُقُ . أُورُقُ の pl. 灰色のもの
أَفَالُ أَفِيلُ の pl. 子供のラクダ	

تَحَمَّلَ أَهْلَهَا وَأَجَدَّ فِيهَا نِعَاجُ الصَّيْفِ أُخْيَةَ الظَّلَالِ

住んでいた人々は旅立って、夏を過ごす雌カモシカが影を得るための住まいをそこに新しく作った

نِعَاجُ نَعَجَةٌ の pl. 雌カモシカ、元は羊の意味	أُخْيَةَ خِبَاءُ の pl. テント
-------------------------------------	----------------------------

وَقَفْتُ بَيْنَ حَتَّى قَالَ صَحْبِي جَزَعْتُ وَلَيْسَ ذَلِكَ بِالنَّوَالِ

私はその家の跡にたたずんだ やがて仲間達は言った
お前は落胆した しかしそれはふさわしいことではない

جَزَعٌ 悲しむ	
لَيْسَ ذَلِكَ بِنَوَالٍ = لَيْسَ ذَلِكَ بِالنَّوَالِ	それはふさわしくない

كَأَنَّ دُمُوعَهُ غَرَبًا سُنَاةٍ يُجِيلُونَ السِّجَالَ عَلَى السِّجَالِ

彼(自分のこと)の涙はあたかも水汲み人足の二つの桶のようであって桶から桶へと水を汲み移す

غَرَبٌ 桶 目は二つなので双数を使っている	سُنَاةٍ سَانٍ の pl. 水を汲む人
أَحَالَ IV 水を汲み移す	سَجَلٌ سِجَالٍ の pl. 水の入った桶

إِذَا أَرَوْا بِهَا زَرْعًا وَقَضْبًا أَمْالُهَا عَلَى خُورٍ طَوَالٍ

彼らが桶で畑や青草に水をやる時、背の高いナツメヤシの木にもそれを傾ける

(水が沢山あるので良く成長したナツメヤシにまで水をやる、それほど水が入った桶のように涙が多い)

قَضْبٌ 青草

خُورٌ خَوَّارَةٌ の pl. 実の多いナツメヤシ
(と思われるが、はっきりしない)

تَمَنَّى أَنْ تُلَاقِيَ آلَ سَلْمَى بِخَطْمَةٍ وَالْمُنَى طَرْفُ الضَّلَالِ

お前はハトウマ(地名)でサルマーの一族に出会いたいと望んでいるが

希望は迷いの末端(初め)である

تَمَنَّى = تَمَنَّى

وَهَلْ يَشْتَاقُ مِثْلَكَ مِنْ دِيَارٍ دَوَارِسَ بَيْنَ تَحْتِمٍ وَالْخِلَالِ

お前みたいな奴がタフティムとヒラール(共に地名)の間にあった、

今は消えてなくなった住まいの跡にあこがれるのか

دَوَارِسُ دَارِسُ の pl. 消えてなくなった

وَكُنْتُ إِذَا الْهُمُومُ تَحْضُرْتَنِي وَصَدَّتْ خُلَّةٌ بَعْدَ الْوِصَالِ

صَرَمْتُ حِبَالَهَا وَصَدَدْتُ عَنْهَا بِنَاجِيَةٍ تَجَلُّ عَنِ الْكَلَالِ

諸々の憂いが私の前に現れ、いったん結ばれた後で女友達に背を向けたとき

私は彼女との綱を断ち切り、疲労をものともしない大きな良く走るラクダにまたがり、彼女に背を向けた

تَحَضَّرَ	V. 現れる	صَدَّ	背を向ける、拒む
حُلٌّ	友達	صَرَمَ	断ち切る
نَاجِيَةٌ	快速の雌ラクダ cf. نَجَا 逃れる	جَلَّ عَنْ ~	~より強くある、大きくある
كَاللِّ	疲労		

عُذَافِرَةٌ تُقَمِّصُ بِالرُّدَافِي تَخَوَّنَهَا نُزُولِي وَأَزْتَحَالِي

そのラクダはたくましく、後に乗る者をも跳ね飛ばす

私は宿泊しては出発する旅行でそのラクダをすり減らしてやった(旅に出て乗りこなした)

عُذَافِرٌ	たくましい(ラクダ)、前行の نَاجِيَةٌにかかる	قَمَّصَ	II 獣が跳ねる
رُدَافِي	رَدِيفٍ の pl. 後ろに乗る 人、家来	تَخَوَّنَ	V. すり落とす、磨く、すり減らす

كَعَقْرِ الْهَاجِرِيِّ إِذَا ابْتَنَاهُ بِأَشْبَاهِ حُذَيْنَ عَلَى مِثَالِ

それは、型にはめて一様に作ったレンガで築き上げた、建築技師の城のような、大きなラクダである

عَقْرٌ	城 前述のラクダを例えている	هَاجِرِيٌّ	建築技師、ハジャール地方出身の人
ابْتَنَى	VIII. I の بَنَى と同じ	أَشْبَاهُ شِبْهُ	の pl. 似たもの
حُذَيْنَ	حَذَا の受動態 3.f.pl. 同じものを作る	مِثَالٌ	型、モデル

كَأَخْسَسَ نَاشِطٍ جَادَتْ عَلَيْهِ بِرُقَّةٍ وَاجِفٍ إِحْدَى اللَّيَالِي

そのラクダを例えてみれば元気の良い野牛のようであり、
ワーヒフ(地名)の石地で、夜通し、豊かな雨がその牛の上に降った

أَخْسَسَ	平たい鼻を持つもの、野牛	جَادَتْ	雲 etc.が気前よく雨を降らす
بِرُقَّةٍ	石地 前述のタラファの詩を参照	(ラクダを例えた牛の形容がこのあとしばらく続く)	

أَضَلَّ صَوَارَهُ وَتَضَيَّفَتْهُ نَطُوفٌ أَمْرُهَا بِيَدِ الشَّمَالِ

この牛は自分の群れからはぐれた そこへ北風的手中にあった雨雲が客として訪れた(雨を降らせた)

أَضَلَّ	IV. 見失う	صَوَارَهُ	牛の群れ
تَضَيَّفَتْ	V. ~を客として訪れる	نَطُوفٌ	雨雲 f.
شَمَالِ	北風(この意味の時は f. 「風」が f. だから)		

فَبَاتَ كَأَنَّهُ قَاضِي نُدُورٍ يَلُودُ بِغَرْقَدٍ خَضِلٍ وَضَالٍ

その牛は水気の多いガルカドの木やダールの木に身を避けて、誓いを果たす者のように夜を過ごした

قَاضِي	قَضَى の能動分詞 (誓いを)果たす	نُدُورٍ	نَذَرَ の pl. 誓い
لَاذٍ	身を寄せる	خَضِلٍ	. 水気の多い

إِذَا وَكَّفَ الْغُصُونُ عَلَى قَرَاهُ أَدَارَ الرَّوْقَ حَالًا بَعْدَ حَالٍ

それらの木の枝が牛の背中に雨水を滴らすとき牛は自分の角を、時にはあちらに、時にはこちらと回す

وَكَفَّ	滴る	قَرَاهُ	背中
رَوْقًا	角		

جُنُوحَ الْهَالِكِيِّ عَلَى يَدَيْهِ مُكَبًّا يَجْتَلِي نَقَبَ النَّصَالِ

鍛冶屋が腕の上に身を傾け、うつむき、槍(または刀)の鏽をすり落としているかのようなのである

جُنُوحًا	傾くこと	جَنَحَ	の動名詞	هَالِكِيٌّ	鍛冶屋、(ハーリクという人名から出来た語)
مُكَبِّ	分詞	أَكَبَّ	IV. うつむく の能動	اجْتَلَى	VIII (刀などの)鏽をすり落とす、磨く
نَقَبًا	分詞	نَقَبَةٌ	の pl. 鏽(小さな穴が一面にあいた)	نَصَالًا	の pl. 槍先、刀の刃

فَبَاكِرُهُ مَعَ الْإِشْرَاقِ غُضْفُ ضَوَارِيهَا تَحُبُّ مَعَ الرَّجَالِ

血に飢えた垂れ耳の犬どもが早朝、日の出と共に現れて、人間どもと一緒にこの野牛を襲った

بَاكِرًا	III 朝早く訪れる	غُضْفًا	の pl. 耳が垂れ下がった犬
ضَوَارٍ	ضَارٍ 的 pl. 獵犬、血に飢えた犬	حَبًّا	ここでは 襲撃する の意味

فَجَالَ وَلَمْ يَجُلْ جُبْنَا وَلَكِنْ تَعَرَّضَ ذِي الْحَفِيظَةِ لِلْقِتَالِ

野牛は走り回るがそれも臆病ゆえではなく、怒りを抱いて戦闘に直面する者のように走り回る

تَعَرَّضَ	V姿を現すこと、直面すること ここでは対格で、「直面する態度で」	حَفِيظَةٌ	怒り、憤り
-----------	-------------------------------------	-----------	-------

فَغَادَرَ مُلْحَمًا وَعَدَلَنَ عَنْهُ وَقَدْ خَضَبَ الْفَرَائِصَ مِنْ طِحَالِ

犬のムルハムを置き去りにし、犬どもがわきにそれた(見失った)間に
犬のティハールの胸元を朱に染めた

مُلْحَمٌ, طِحَالٌ	どちらも犬の名	خَضَبَ	(赤く)染める
فَرَائِصُ	فَرِيصَةٌ の pl. 胸元		

يَشْكُ صِفَاحَهَا بِالرُّوقِ شَزْرًا كَمَا خَرَجَ السِّرَادُ مِنَ النَّقَالِ

犬どもの脇腹を斜めから角で刺し貫く様は
修理中のぼろ靴から千枚通しが突き出ているかのようなのである

صِفَاحٌ	صَفْحٌ の pl. 脇腹	شَزْرًا	斜めに
سِرَادٌ	錐、千枚通し	نَقَالٌ	نَقْلٌ の pl. 破れたもの、修理中の靴、靴の革

وَوَلَّى تَحْسِرُ الْغَمْرَاتُ عَنْهُ كَمَا مَرَّ الْمُرَاهِنُ ذُو الْجَلَالِ

死の淵にも見放され、覆面をした競走馬が走り去るように、野牛は脱走した

وَلَّى	II 逃げる	حَسَرَ عَنْ	~を取り除く、脱ぐ、見放す
غَمْرَاتُ	غَمْرَةٌ の pl. 深淵、死の淵	مُرَاهِنٌ	競走馬
جَلَالٌ	جَلٌّ の pl. 覆うもの		

وَوَلَّى عَامِدًا لِطِيَّاتٍ فَلَجٍ يُرَاوِحُ بَيْنَ صَوْنٍ وَأَبْتِدَالٍ

ファルジュの谷間を目指して、ことさらに、小走りと韋駄天走りを交互に繰り返しつつ脱走した

عَامِدًا	わざと、ことさらに	طِيَّاتٍ (طِيَّاتٍ)	طِيَّةٌ の pl. 目的、目指すこと
فَلَجٍ	小川の意味があるが、ここでは地名ともとれる	رَاوِحٍ	III. 交互に行う
صَوْنٌ	守ること、ほどほどにすること	أَبْتِدَالٍ	一生懸命行うこと

تَشُقُّ خَمَائِلَ الدَّهْنَا يَدَاهُ كَمَا لَعِبَ الْمُقَامِرُ بِالْفِيَالِ

前足で木の繁るダハナー(地名)の砂地を通り抜ける様は、山当て遊びで勝負する人のようである

خَمَائِلُ	خَمِيْلَةٌ の pl. 木の繁る砂地	山当て遊びについては前述のタラファの詩を参照	
-----------	-------------------------	------------------------	--

وَأَصْبَحَ يَقْتَرِي الْحَوْمَانَ فَرْدًا كَنْصَلَ السَّيْفِ حُودِثَ بِالصِّقَالِ

かくて、研ぎ澄まされた刃のように輝いて、ひとりハウマーン(地名)の野を渡って行く

اِقْتَرَى	VIII. 旅をする、渡り歩く	حُودِثَ	III. Ⅲ. の受動態 新品同様にする、磨く
صِقَالٌ	صَقَلَ の動名詞 磨くこと		

مُفَاعَلَتُنْ مُفَاعَلَتُنْ فَعُولُنْ

長長短 長短短長短 長短短長短

أَلَمْ تُلِمِمَ عَلَى الدِّمَنِ الْخَوَالِي

長長短 | 長短短 長 短 | 長(長) 長短

ラビードのこの詩は **وَإِفْرٍ** 調という韻律でできている。これは長音節と単音節の組み合わせが上半句、下半句とも左のようになるもの。

短+短→長、長→短などに、変わることもある。

ex. この詩の1行目の上半句

○印は短+短→長になっているところ。

14. 「アラブのラーミーヤ」から

الشَّنْفَرَى 脚韻が **ل** の詩を **لامية** と呼び、**ل** 脚韻の詩はたくさんありますが、**لامية العرب**

シャンファラー作とされるこの詩が特に「アラブのラーミーヤ」と呼ばれて有名なようです。

أَقِيمُوا بَنِي أُمَّيْ صُدُورَ مَطِيِّكُمْ

فَإِنِّي إِلَى قَوْمِ سِوَاكُمْ لِأَمِيلُ

母の子供達よ、ラクダの胸を起こせ なぜなら私はあなたがたとは違う部族に心が傾いているからだ

مَطِيٌّ	乗る家畜、ラクダ (集合名詞) pl.は مَطَايَا		
---------	----------------------------------	--	--

فَقَدْ حُمَّتِ الْحَاجَاتُ وَاللَّيْلُ مُقَمَّرٌ

وَشُدَّتْ لِطِيَّاتٍ مَطَايَا وَأَرْحُلُ

用意万端整ってまさに今夜は月夜だ 色々な目的のためにラクダや鞍が結び付けられる

حُمَّ 受動態 整っている

أَرْحُلُ 鞍の pl.

وَفِي الْأَرْضِ مَنَئِي لِلْكَرِيمِ عَنِ الْأَذَى

وَفِيهَا لِمَنْ خَافَ الْقِلَى مُتَعَزِّلٌ

地上には善き人のため害から隔離された場所があり
そこにはまた憎しみを怖れる人のために避難所がある

مَنَئِي 離れた場所

قِلَى 憎しみ

مُتَعَزِّلٌ 避難する場所(派生形の受動分詞は場所を表せる)

لَعَمْرُكَ مَا بِالْأَرْضِ ضَيْقٌ عَلَى أَمْرِي

سَرَى رَاغِبًا أَوْ رَاهِبًا وَهُوَ يَعْقِلُ

あなたの命に誓って、何かを望んだり怖れたりして夜旅をする人が賢いなら
その人にとって地上に狭さはない

وَلِي دُونِكُمْ أَهْلُونَ سِيدٌ عَمَلَسٌ

وَأَرْقَطٌ زُهْلُولٌ وَعَرْفَاءٌ جِيَالٌ

私にはあなたがたがいなくても身内がいる 疲れを知らぬ狼
滑らかなまだらのヒョウ、たてがみの長いハイエナ

سِيدٌ	狼	عَمَلَسٌ	速く走っても疲れを知らない
أَرْقَطٌ	まだらのヒョウ	زُهْلُولٌ	滑らかな
عَرْفَاءٌ	たてがみの長いハイエナ	جِيَالٌ	ハイエナ

هُمُ الْأَهْلُ لَا مُسْتَوْدَعُ السِّرِّ ذَائِعٌ

لَدَيْهِمْ وَلَا الْجَانِي بِمَا جَرَّ يُخَذَلُ

彼らは秘密を託されればもらすこともない者達で
罪人は犯した罪のことで彼らから見捨てられることもない

مُسْتَوْدَعٌ	預かりもの	جَانِ الْجَانِي	罪人
جَرَّ	(罪を)犯す	خَذَلَ	見捨てる

وَكُلُّ أَبِي بَاسِلٍ غَيْرِ أُنْتِي

إِذَا عَرَضَتْ أُولَى الطَّرَائِدِ أَبْسَلُ

みんな誇り高く、勇敢である しかし私は、最初の獲物が現れたとき、いっそう勇敢な者だ

بَاسِلٌ 勇敢な

طَرِيدَةٌ の pl. 獲物

وَإِنْ مُدَّتِ الْأَيْدِي إِلَى الزَّادِ لَمْ أَكُنْ

بِأَعْجَلِهِمْ إِذْ أَجْشَعُ الْقَوْمِ أَعْجَلُ

食べものに手が伸ばされたとき、私は決して最も速やかな者ではない
なぜなら最も貪欲な連中が最も速やかだからである

وَمَا ذَاكَ إِلَّا بَسْطَةٌ عَنْ تَفْضُلٍ

عَلَيْهِمْ وَكَانَ الْأَفْضَلُ الْمُتَفَضِّلُ

それは彼らに対する親切からの、心の豊かさにほかならない 親切を示す者こそ最も優れた者である

بَسْطَةٌ 心の豊かさ、広さ

تَفَضَّلَ V 親切にする 動名詞と能動分詞が使われている

وَإِنِّي كَفَانِي فَقَدْ مَنْ لَيْسَ جَازِيًا

بِحُسْنِي وَلَا فِي قُرْبِهِ مُتَعَلِّلٌ

ثَلَاثُهُ أَصْحَابُ فُؤَادٍ مُشِيْعٍ

وَأَبْيَضُ إِصْلِيْتٍ وَصَفْرَاءُ عَيْطَلٌ

善をもって報いない者、近くにいても何の楽しみもない者から逃れる手間を
3者の友が、私に省いてくれる 勇敢な心と磨かれた刀と首の長い弓が

كَفَى	(人)に~の手間を省く	جَزَى بِـ	~で報いる ここでは能動分詞
تَعَلَّلَ بِـ	V ~で楽しむ	مُشِيْعٌ	勇敢な
أَبْيَضُ	刀	إِصْلِيْتٌ	(刀が)磨かれた
صَفْرَاءُ	弓	عَيْطَلٌ	首の長い

هَتُوفٌ مِنَ الْمُلْسِ الْمُتُونِ يَزِينُهَا

رَصَائِعُ قَدْ نِيَطَتْ إِلَيْهَا وَمِحْمَلٌ

(その弓は)背が滑らかで、弦音高く、吊るされた輪飾りや紐がそれを飾っている

هَتُوفٌ	音を立てる	مُلْسٌ	مَلْسَاءُ f. の أَمْلَسُ m. pl. 滑らかな
مُتُونٌ	مِثْنٌ の pl. 背中	رَصَائِعُ	رَصِيْعَةٌ の pl. 輪飾り
نَاطٌ	吊るす	مِحْمَلٌ	刀などの紐

إِذَا زَلَّ عَنْهَا السَّهْمُ حَنَّتْ كَانَّهَا

مُرَّرَاةٌ تَكْلَى تِرْنٌ وَتُعَوْلُ

その弓から矢が放たれたとき、子を失って泣き悲しむ、不幸に見舞われた女のように泣き叫ぶ

زَلَّ	滑る、速く過ぎる	حَنَّ	弓などが音を立てる
مُرَّرَاةٌ	不幸に見舞われた	تَكْلَى	子を失った母
أَرَنَّ	IV 嘆く	أُعَوْلُ	IV 声を上げて泣く

فَإِنْ تَبْتَيْسُ بِالشَّنْفَرَىٰ أُمَّ قَسَطِلٍ

لَمَّا اغْتَبَطْتُ بِالشَّنْفَرَىٰ قَبْلُ أَطْوَلُ

もし戦いがシャンファラーを失って悲しんだとしても
それまでにシャンファラーに満足していたことのほうがいっそう長い

إِبْتَأَسَ	VIII 悲しむ	أُمَّ قَسَطِلٍ	戦いのこと は、ちり、ほこり
إِغْتَبَطَ بِ	VIII ~に満足する	قَبْلُ	それ以前に

وَلَيْلَةَ نَحْسٍ يَصْطَلِي الْقَوْسَ رَبِّهَا

وَأَقْطَعُهُ اللَّاتِي بِهَا يَتَنَبَّلُ

弓を取る人が、手作りの弓矢を焚いて暖を取るような寒さの厳しい夜

نَحْسٍ	逆境	إِصْطَلَى	VIII 暖を取る
أَقْطَعُ	قِطْعٍ の pl. 矢じり	تَنْبَلُ	V 矢を作る نَبْلٌ は矢の意味

دَعَسْتُ عَلَى غَطَشٍ وَبَغْشٍ وَصُحْبَتِي

سُعَارٌ وَارْزِيزٌ وَوَجْرٌ وَأَفْكَلٌ

私は飢えとあられ(ひょう)と怖れと震えを道連れに、闇と小雨を踏み分けて行った

غَطَشٌ	闇	بَغْشٌ	小雨
سُعَارٌ	飢え	ارْزِيزٌ	あられ、霧
وَجْرٌ	怖れ	أَفْكَلٌ	震え

فَأَيْتَمْتُ نِسْوَانًا وَأَيْتَمْتُ وَلَدَةً

وَعُدْتُ كَمَا أُنْدَأْتُ وَاللَّيْلُ أَلَيْلٌ

私は女達をやもめにし、子供達を孤児にした

そして夜もたけなわのうちに、始めたのと(来たときと)同じように(無事に)引き上げた

أَيْمٌ	II (人を)やもめ(أَيْمٌ)にする	أَيْتَمٌ	IV (人を)孤児(يَتِيمٌ)にする
وَلَدَةٌ	وَلَدٌ の pl.	أَلَيْلٌ	闇夜である、夜更けである

وَأَصْبَحَ عَنِّي بِالْغُمَيْصَاءِ جَالِسًا

فَرِيقَانِ مَسْئُولٌ وَآخَرٌ يَسْأَلُ

そして朝、私がグマイサー（地名）に引き上げて座っている*とき、敵が2派に分かれて問答し始めた

جَالِسًا

*「座っている」とは違う意味にと
る説もある

فَقَالُوا لَقَدْ هَرَّتْ بَلِيلٌ كِلَابُنَا

فَقُلْنَا أَذِنَبٌ عَسَّ أُمَّ عَسَّ فُرْعُلُ

ある人々が言った 夜中に我々の犬が鳴いただけだ

別の人々が言った 狼が見回ったか、ハイエナの子が夜回りをしたのだろう

هَرَّتْ

(犬が)吠える

عَسَّ

見回る 巡回する

فُرْعُلُ

ハイエナの子

فَلَمْ تَكُ إِلَّا نَبَأَ عَيْبِئِمَّ هَوِّمَتْ

فَقُلْنَا قَطَاةٌ رِيْعَ أُمَّ رِيْعَ أَجْدَلُ

一声鳴いただけで眠ってしまったのだろう 別の人々が言った ライチョウが驚いたかタカが驚いたのだ

تَكُ = تَكُنُ	نَبَأَ	鳴くこと、叫ぶこと
هَوِّمَتْ II 眠る	قَطَاةٌ	鳥の一種 ライチョウ？
رِيْعَ رَاعٍ 驚かせる の受動態	أَجْدَلُ	タカ

فَإِنْ يَكُ مِنْ جِنِّ لَأَبْرَحَ طَارِقًا

وَإِنْ يَكُ إِنْسًا مَا كَهَا الْإِنْسُ يَفْعَلُ

もしジン(魔物)のしわざであったとしても、夜に来て大したことをやったものだ
もし人間であったとしたら、いや、人間ではとてもこんなことはできないだろう

أَبْرَحَ IV 大したことをする	طَارِقًا	夜に訪れる(人)
كَهَا = كَمَثَلِهَا		

لَا تَقْبُرُونِي إِنَّ قَبْرِي مُحَرَّمٌ

عَلَيْكُمْ وَلَكِنْ أَبْشِرِي أُمَّ عَامِرٍ

私を葬るな 私の埋葬はあなたがたに禁じられている だが喜べ、ハイエナよ

أُمَّ عَامِرٍ	ハイエナのこと
---------------	---------

إِذَا أَحْتَمَلُوا رَأْسِي وَفِي الرَّأْسِ أَكْثَرِي

وَعُودِرَ عِنْدَ الْمُلتَقَى ثُمَّ سَائِرِي

私の大部分がある頭を彼らが持ち去っても 私の残りの部分は戦場に捨てられ、そこにある

مُلتَقَى	ここでは戦場の意味
----------	-----------

ثُمَّ	そこに
-------	-----

هُنَالِكَ لَا أَرْجُو حَيَاةً تُسْرِنِي

سَجِيسَ اللَّيَالِي مُبْسَلًا بِالْجَرَائِرِ

私は、犯した悪事のために引き渡され、決して喜びの生涯を望まない

لَا ~ سَجِيسَ اللَّيَالِي	決して~しない
---------------------------	---------

أُبْسَلَ	IV 引き渡す
----------	---------

جَرِيرَةٌ جَرَائِرُ	の pl. 罪
---------------------	---------

結び タラファのムアツラカ詩から

(9の詩の続き 恋人を鹿にたとえて詠んでいる部分)

فِي الْحَيِّ أَحْوَى يَنْفُضُ الْمَرْدَ شَادِنٌ

مُظَاهِرٌ سِمَطٌ لَوْلُوٌّ وَزَبْرَجَدٌ

部族の中にアラクの実を振り落す黒い唇の小鹿がいる 緒に通した真珠と貴橄欖石を身につけている

أَحْوَى	黒い、色の濃い唇の	أَرَاكُ	アラクの実
شَادِنٌ	小鹿	مُظَاهِرٌ	Ⅲ の能動分詞 重ねて身につける
سِمَطٌ	ひも、緒	زَبْرَجَدٌ	貴橄欖(かんらん)石

خَذُولٌ تُرَاعَى رَبْرَبًا بِخَمِيلَةٍ

تَتَاوَلُ أَطْرَافَ الْبَرِيرِ وَتَرْتَدِي

仲間から取り残された牝鹿である 野牛の群れと共に茂みの中で食べ、アラクの実の端々を食べ
木立の中に身を没する

خَذُولٌ	群れから取り残された、見捨てられた雌	رَاعَى	Ⅲ ~と一緒に草を食べる
رَبْرَبٌ	野牛、鹿の群れ	تَتَاوَلُ	Ⅴ の ِت が一つ省かれている
بَرِيرٌ	アラクの熟した実	تَرْتَدِي	Ⅷ 着る 木の葉が着物のように見えることを言っている

وَتَبَسُّمٌ عَنْ أَلْمَى كَأَنَّ مُنَوَّرًا

تَخَلَّلَ حُرَّ الرَّمْلِ دِعْصُ لَهُ نَدٍ

彼女が色の濃い唇で微笑むとき、清らかな砂でできたみずみずしい丘の上に
カミツレ(カモミール)の花が咲いたようだ

أَلْمَى	色の濃い(唇)	مُنَوَّرٌ	咲いている ここでは、咲いてい る أَقْحَوَانٌ カミツレ
تَخَلَّلَ	V 間にある、入る	حُرٌّ	純粋な
دِعْصُ	砂の丘	نَدٍ	みずみずしい、湿った